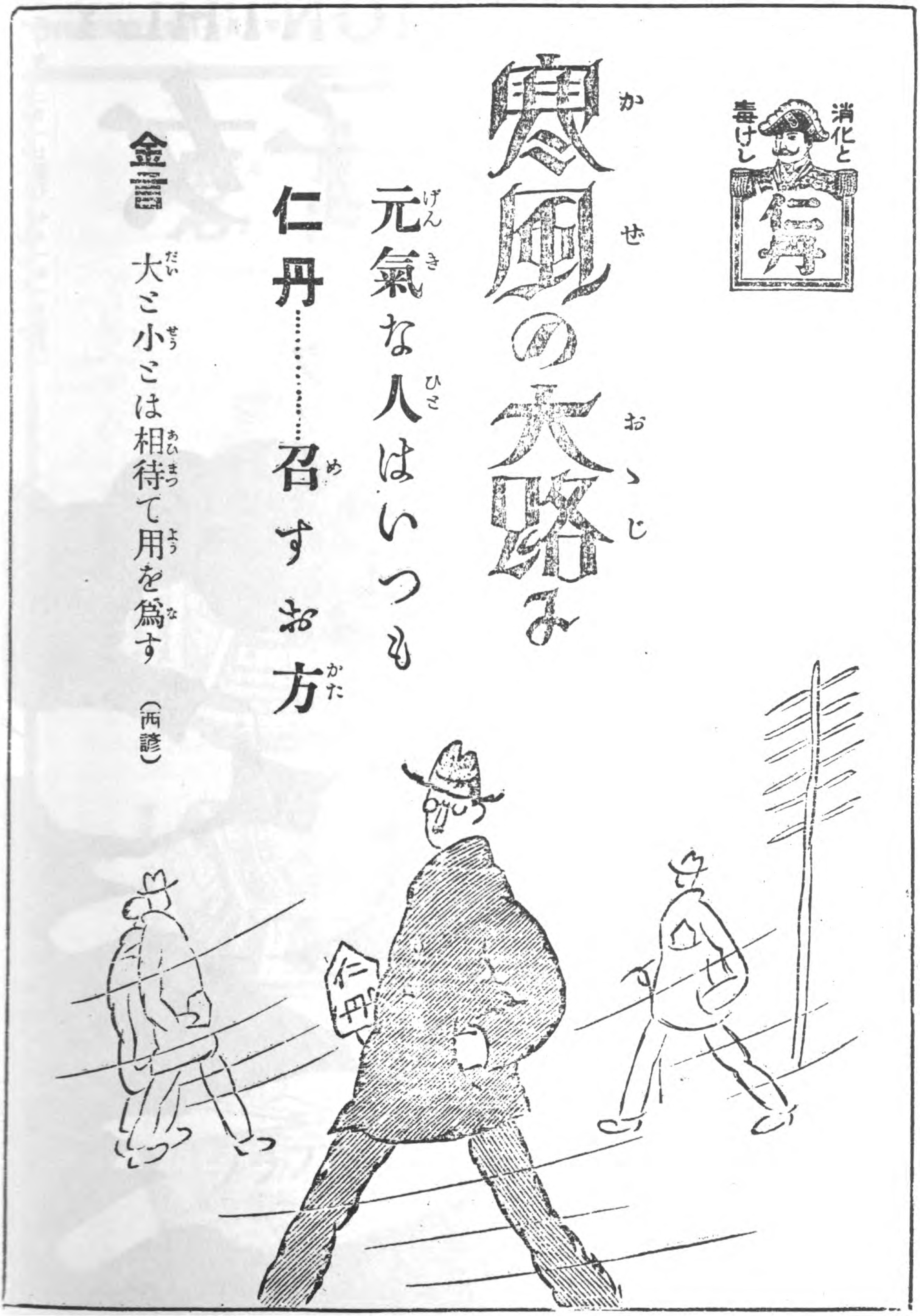
THE Y.W.C.A. MONTHLY

女子青年界

明治三十七年五月七日第三種郵便物認可
大正十年十二月一日發行（毎月一回一日發行）

クリスマス號



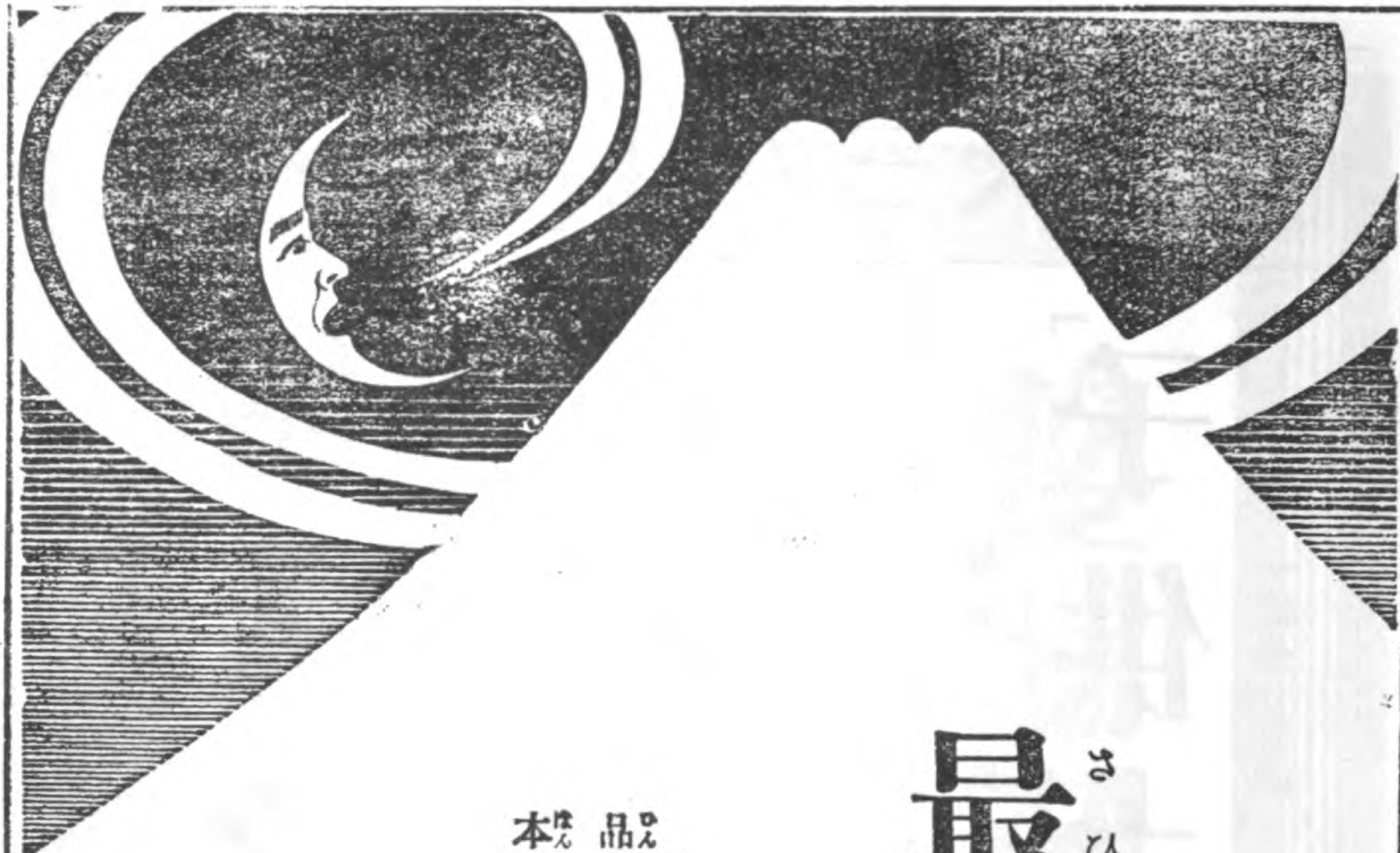


消化と毒けし
仁丹
寒風の大路を
元氣な人はいつも
仁丹……召すお方
金言
大と小とは相待て用を爲す
（西諺）
仁丹

第十八巻第十二號

女子青年界目次

大正十年十二月號



東京神學社教授　高倉德太郎著

第二版出來

恩寵の王國

四六版三百八十餘頁
天金紙裝
定價　金貳圓五拾錢
郵稅　拾貳錢

文學士齋藤勇君の批評の一節

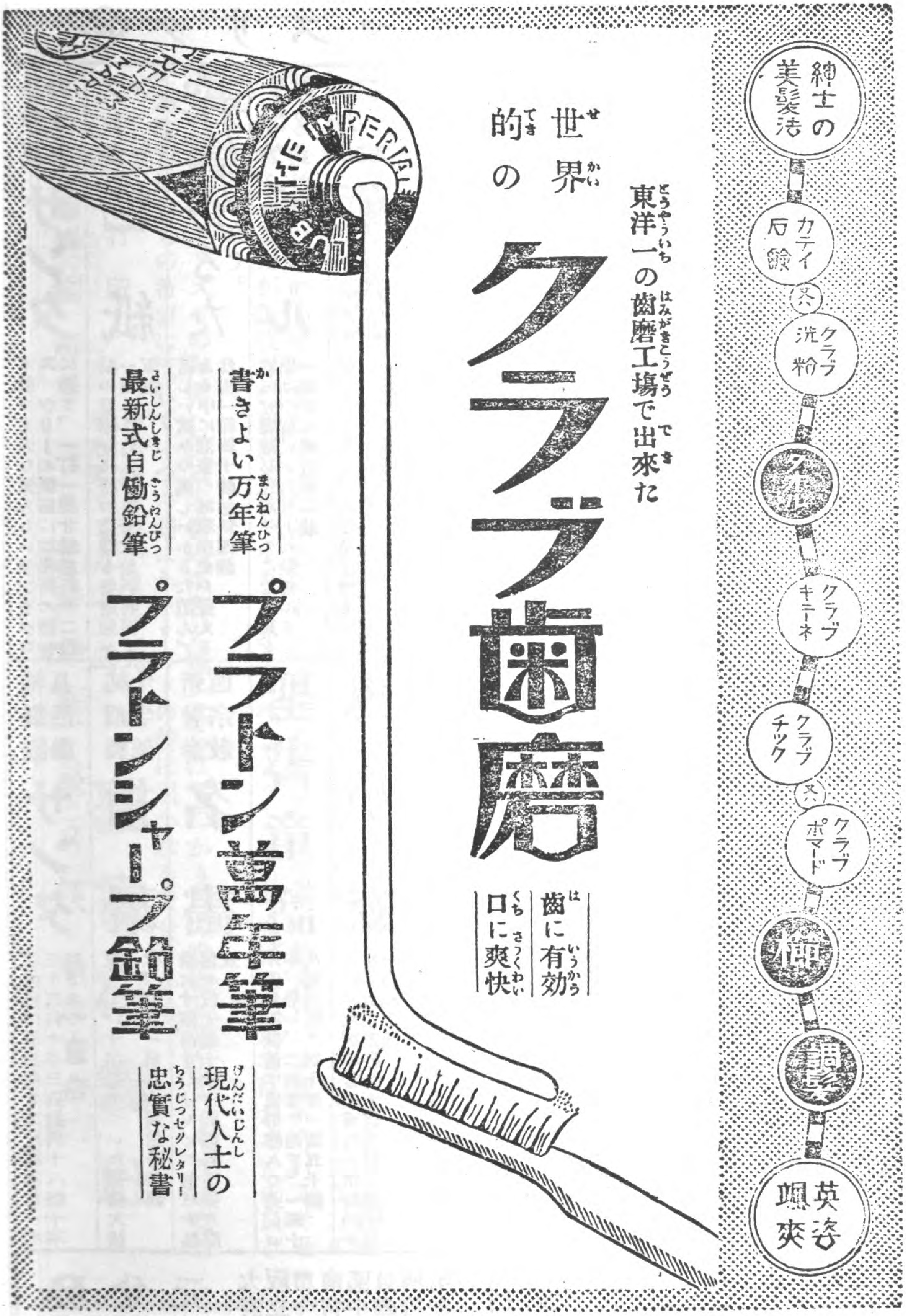
「生命の感激」「幻の力」「深き生命」「必然の道」「眞實への透視」是等は何と云ふ力に漲つた文字であらう。その一句一句には理想の光りの下に曝された自我を鋭く直視して假借しない精進心の脈動が感ぜられる。そして行詰つた自力の途から絶對のセルフ、サレンダーに入らうとする血を絞るやうな轉機の苦悶にある君の熾烈な魂の熱火が私の魂をぢり〳〵と燒く。良いとか惡いとかいふやうな批評の這入の隙間もない迄に切迫した眞劍さをもつてひし〳〵と迫つて來る。『文は人なり』といふ語は君と是等の文章とに於て眞實である。

札幌教會牧師小野村林藏君の批評の一節

讀者よあなたが「恩寵の王國」を御讀みなるならば御注意下さい。この著者は熱烈なる信仰を一生懸命に、眞率に、露骨に説きます。あなたの心にもし不安があるならばキリストに於ける平安をあなたに與へるため彼れは時と所とを忘れる程熱心でありますあなたはこの書物の魅力につかまへられるでせう。讀者よあなたが近代思想の間に在つてキリストに生きようとするならばこの著者はあなたの良き師友となるでせう。併しあなたがキリストのみ與へ得る本當の平和を嫌ふならばうつかり此の書物を繙かないやうになさいあなたは自らの希望に反していつの間にかキリストの前に引かれるでせうから。

發行所　相州鎌倉町小町三二九　振替東京二八六二四　**聖書研鑽社**

◎賣捌所　警醒社、敎文館、伊藤書店


紳士の美髪法
カテイ石鹸
又ハ
クラブ洗粉
クラブキテーネ
クラブチック
又ハ
クラブポマード
英姿颯爽
東洋一の歯磨工場で出來た
世界的の
クラブ歯磨
歯に有効
口に爽快
THE IMPERIAL
書きよい万年筆
最新式自働鉛筆
プラトン萬年筆
プラトンシャープ鉛筆
現代人士の
忠實な秘書

女子青年界　第十八卷第十二號　大正十年十二月一日發行

平和の君

河井道子

基督教的出刊物は十二號と云へば型に嵌つた樣に、メリクリスマスを書き出しますが、主の御降誕は年々其意義が私共に深く彩になるべきであり、信徒が此期節を祝賀するは至極當然の事であります。昔しユダヤの野に御降誕を祝し天使が「神には榮光、地には平安、人には恩澤」と歌ひし頌榮が今年程有意義に私共にひゞく事はありません。

今や全世界が注目して居る華府會議の中心點は平和であります。其平和を永久に維持せん爲めに樣々の提案があり、其通過を萬民が氣遣ふてゐます。

平和が到達する行程は中々難澁なもので坦々たる平原を一瀉千里的に走りゆけるものでなく、又花咲き鳥歌ふ野邊を逍遙するのでもなく、寧ろ巖石峨々とし風雲行手を閉す山路か、或ひは暗礁多き海原を暴風雨中に航海するに譬ふるが至當であります。其故に世界に平和を實施せんとする華府會議の容易ならざるを首肯する事が出來ます。兎も角萬民が平和を望み、其方向に面して居る事は確かで、換言すればキリストに向ひ

徐行しつゝあると申すことが出來ます。個人でも國家でもキリストに到達する門は狹く其道は小さいので、亡びにゆく道は廣く大なのは古今を通じて同じ事であります。

かく萬民が旱魃に雨露を切望する如き有様で、平和を待ちのぞみしかも尙得難い理由は何處にありませうか。それは全く平和の源、平和の君なるエス、キリスト以外に其を求め、彼の救、命令、教訓を度外視して他に探求する故であります。「凡て疲れたるもの又重荷を負へるものは我に來れ」との招きを冷笑するからであります。「我は道也眞理也、生命也、我を信ずる者は永久生くべし」とか、「劍を以て立つものは、劍にて亡ぶべし」とか「正邪妥協的の平和を來すにあらず、刄を出すなり」とのお言葉を無視したからであります。

平和の要素は多くありますが、其主なるものは悔改、謙遜、忍耐、同情、奉仕かと思はれます。而して此等の美德は不思議にも主エスを信ずる者に授與されるのであります。彼を離れては此等を全うすることが出來ぬとすれば、エスはたしかに平和の大君主でありませう。一躰、平和と申ものは、個人、社會、國家關係を表はすもので、孤立的に存在するものでないと申ます、すると或人は斯く申ましよう「人をも社會をも離れた脫俗人には自と平和があるではありませんか」と。而しこれは確な事實でしようか。人はいかに獨であるとても良心とは離れられず、良心と平和を持つことは、群衆中にあらうと孤島にあらうとに差別はありません。卽ち神と和ぐことのない時は何處に於ても安定はないのです。古歌に「世を捨てゝ山に行く人山にても住みうき時は何地行くらん」とある通り、心の苦痛、悲哀のある間は何處も住みうき場所であります。聖アウガスチンが「神よ我等の心は汝に歸し、汝に安するにあらでは平安なし」と告白したのも同じ道理であります。何處をも住み心地よくするには、神と我との間に平和がなくては到底不可能であり、エスキリストは此大事業、卽ち人を神に和睦させんために降誕されたので、其を紀念し祝ふのがクリスマスであります。かく

てこそ天使が讃美した言葉の意味も明かになります。近年、英詩界の明星といはるゝ「天の獵犬」は以上の消息をよく說ってをります。それは、一青年が神などは入らぬもの、神と我とは沒交渉とならんとして諸所に已を隱してみたが、どうしても安心がない、神が附き纒ふて居られて苦しく、遠くゆけば行く程良心が攻め立て終に耐られずして、神のお手に任せ、神に捕はれた處、始めて平和と喜悅が湧出たとの意を表はした詩であります。如斯く人間は各自、神との和睦なしに安心はない。其ならば、神はたゞ正義のみを以て人類の罪を攻められるものとしたらば、私共は恐怖の念にかられて、逃げたくなるは自然でありましよう。其ならば無神論者ならば安心が出來るかと申せば決して然うでもない、若し彼等の家人中死に瀕す者ある場合、あきらめはならんとも眞の平和は逝く者にも遺族にもない事は平常實驗する處であります。

エスのみが人を神に和がせ、神と人との間にある、大戰爭を撤廢させ、天地に平和を來らせんために世に臨まれたとは信徒の信仰であります。此の平和を基礎として、私共は個人、家庭、社會、國家の平和を唱道致します。人類は神に對しても、他に對しても、虛僞を捨てゝ眞に悔改め、謙遜、忍耐、同情、奉仕を實行せねば平和は樹立出來ません、かゝる精神をエス君が人類に與へ、其實行の力を與へられたゆゑに、彼を平和の君と仰ぐは合理的ではありませんか。

曾て割長家住居に仲よしの夫婦がをりました、隣近所では夫婦、親子喧嘩が斷へません、如何したらば仲よくなるかと尋ねに來る者ある毎に、「基督者に御なりなさい、仲よくなる妙藥妙法ですよ」と彼等は返したそうです。實に家庭の平和はキリストを信ずるに於て湧き來ります。

現今の樣に社會が混亂して、道德問題、思想問題、社會問題に手の付け樣がない有樣であります、これを整理するものはキリストに在ると信仰します、米國フレンド派の一大學創立は七十五年間、其卒業生中に一

人の離婚者を出さず、皆良家庭を作つたとの事ですが、勞資問題、國際問題も圓滿に解決して平和を喜ぶには矢張キリストの感化を受けなくては到底成功しないと存じます。世界は只今其目的に向つて進行しつゝはありますが、以前にも述べた様に、實に難義な道筋を通らなくてはなりません。華府會議は其行程にあるのですから、其は々々困難が澤山ありましよう、又其が終了したとて、直には平和と申事は出來ません、此永年人類の習慣となつて來た喧嘩好きな性分から矯正して行かねばなりますまい。しかし此際私共と主エスの御降誕は人類の大幸福であると同時に神の方には大犧牲を拂はれたものであることを忘れてはなりません。地に平和を來し、人に恩澤を與へ給ふためには、十字架の犧牲を拂ひ給ひし事を覺えて、私共も眞の平和を來たらすためには、公私に犧牲の入る事をよく記憶致し度いものであります。

爰に謹んで主の御降誕を祝し、神の御恩寵を感謝し、世界の平和をエス君によりて早く與へられんことを祈り申上ます。

意義あるクリスマスを迎へよ

井深花子

朝起ればお早う、お正月にはお目出度うと幼い子供の口からも出るように別に深い意味も考へずに、言葉にあらわす習慣が世の中にいくらもありますが近來クリスマスもこれと同様な傾向が見へるようになりました。時々年始狀と同様にクリスマスを祝ずと云ふ様な葉書が、しかも基督者でない商店抔から

來る事があります。又宗教には無頓着な家庭でも、クリスマスツリーを立て、子供を喜ばすと同時に家族團欒の爲に用ゐらるゝ習慣が追々盛になつて來るようです。私共でも自然年中行事の一にして只無意味に此れを迎へ祝するようになりつゝありはしないかと、恐れます。其處で私共は此點には注意して、日曜學校のクリスマスの準備だとか、友人にプレゼントやカードを送る抔外形の準備と同時に猶一層自己の修養に勉め、主の降誕を祝するに相應しい心掛と行爲とを以てクリスマスを迎へ度いと思ます。

第一感謝に滿され度事

主の御降誕は自己の罪惡を悟り、己の弱きを知る者の外には迚も有難さが充分解るものではありません。自分の弱きを知り罪人である事を心の底から認識し、此罪より救ひ出されん事を望む切なるが爲に又此弱き我身も主に依て强められ唯主に依てのみ價値ある器にして用ゐて戴かれるとの確信が有つてこそ主の御降誕が眞に有難くなるのです。本當に主の御降誕は私の蘇生の曙光であると思へばどうして感謝せずに居られませう。又全世界が此主に依り、命に蘇生る事を敎へられて初めて心の底より湧き出る感謝を以て御降誕を祝する事が出來ると思ひます。故にクリスマスを迎へる第一の準備は、先づ主の前にひれ伏し、理屈からで無く肉身の親を迎へる歡びにもいや增す、溫情と、感謝とを以て心の中に新たに主をお迎へ申す事が出來る樣に、祈り求むる事であると存ます。

第二にはイエス樣を溫く我心の中にお迎へ申す準備が出來たら次に私は主の爲に何をなすべきでせうかと云ふ事を考へ度く存ます。それは感謝に伴ふ行爲でせう。凡そ人は恩人に對しては、謝恩の意を表する爲に力一ぱい何か其人の爲に盡し度い、何か最善の品を献じ度いと思ふのが人情でせう。されば主に捧げるに一番良い物は何でせうか。ポーロは其身を神の心に適ふ聖き活ける供物として神に献げよ、これなすべきの祭なりと敎へて吳れました。自分の

身も心も凡てを神様に捧ぐることと是より以上の事は誰にも出來ますまい。これは神様の御前に最も貴き供物で御座います。併し如何なる身、如何なる心を奉げるか。神様の御旨に適ふ祭物となるには第一聖きものとせねばなりません。「聖なるもの」私共の如き罪人はどうしたら聖いものとなる事が出來ませうか、昔時ユダヤ人は種々の形式によりて淸いものとなり得るやうに考へたらしく思はれますがそれ程容易なものではありますまい併し決して出來得べからざる事を神様は要求なさいません。それ故必ず私共の努力により．其方法は屹度見出す事が出來ます。先づ務むべきは此身は神の殿である、神様が私の中に宿り給ふ事を考へ、其身の純潔を守り、言葉には勿論心の中迄も凡て汚れたる思想を斥け、放埓なる行爲を誡め、聖き主の御心を以て心とせん事と勤めねばなりません。ポーロはガラテヤ書五章によく私共の靈肉の戰ある事を指摘し又其肉に依て歩むもの即ち肉の慾に征服せられたる者と、靈に依て肉を征服したる者の行爲の如何に黑白の差のあるかを示して居ります。姉妹方は是非此章を御熟讀下さるやうお願致ます。近來時勢の激變がもたらす副産物とでも申しませうか、兎角人の心が利己主義となり、甚しきは人生の幸福は己の慾を滿足せしむるにありと云ふ論法で思想の强固ならざる青年を、惑はす不親切なる文士や、道念の薄弱なる學者の續々出る事は、實に嘆しき事と存ます。彼等は人間の生涯を聖化せん事を務めず、只己の幸福を第一に求めます。其幸福を希ふはよいとしても、其幸福の根源を自己滿足に置き、而して其望む處の滿足も幸福も得ずして却て永遠の滅亡に身心を投ずるのであります。神の形に像り造られたる人間には、生れながら聖き魂を聖化し得る人格を與へられてあると思ひます。それを汚さず、又犯されぬやう、パウロの敎へし如く常に肉を離れ靈に導かれつゝ歩みさへすれば必ず神の御前に聖き供物として捧げらるべき身となるように聖別して戴かれると思ひます。務むべきは靈肉の奮

闘です。次に神の喜び賜ふ供物となる資格は生ける者で無くてはなりませんとパウロは申しました果して私共の生涯は生きた生涯でせうか。生きた者は必ず成長の機能を持ちます。我々の人格、我々の智能、我々の信仰、又日々の業これ皆活力を有し、日々新たに成長、發達、向上しつゝある最希望に滿ちたる生涯を、神の御前に獻じなくてはなりません。神樣は利己主義の産んだ厭世家や、自暴自棄者をお好みになりません。生き〳〵として、凡ての方面に進歩成長し、主義ある生活を爲さん爲に奮闘しつゝある聖き身心を一番お喜びになります。又生きたるものに對し神樣が期待遊ばす大切なる事は、只に自己の成長進歩ばかりでなく、奉仕の生涯で御座います。如何に人格は向上し、信仰は進み、日々に聖化致しましても、奉仕の心なきものは、花のみ咲きて實を結ばざる植物の如く、外見美なるが如きも、生存の目的に適はざるものと云はねばなりません。キリストの榮の冠は、奉仕の御生涯で御座います。此主イエスの御降誕に依り、私共は死より命に蘇生り、暗黑の世界より光明の國に導かれ、世の中の人の味ひ得ざる幸福と恩寵を蒙りながら、猶自己の救のみに滿足して居る事が出來ませうか。報恩の念が強くなれば多忙なる業務を持つ人でも奉ぐべき時間を見出し得ませう。有り餘る財寶ならずとも、乏しき中より貴き獻金が出來ます。學課に繁忙なる學生でも、家事多端なる家庭の主婦でも、神の國建設の貴き工事に勞力を奉げ得る時も、力も生み出す事が出來ます。イエス樣は、レプタ二つ奉げし貧しき寡婦を如何にお祝しになりましたかを皆樣は御記憶でせう。

神樣の御旨に適ふ私共の奮闘は自己の爲のそれでなく、寧ろ己を捨て神の國の爲、友の爲廣くは世界の幸福の爲奉仕の奮闘です。出來得べき丈けの力を盡して最良い物を神に奉げまつる事が、私共クリスマスを迎ふるに際して爲すべきの準備で御座いませう。若き姉妹方よ、あなた方の御生涯中の最良い時は今で御座います。其活力に富ませらるゝ時、其

純なる心を神樣にお捧げになり、神樣の豊なる御祝福により、ますく〜繁々實を結び諸姉の將來が光輝あるものたらん事を祈りクリスマスの御祝詞に致します。

神の國（其三）

立教大學教授
ドクトル、オブフイロソフイー　小島茂雄

我々の望む天國は、人と自然とが摩擦なく行くものであるべきことを述べたが、人對人の關係に於ては如何なる原則がこれを支配すべきものであるかと言ふ點を考へねばならぬ。

人對人の關係

人間と人間との間の關係を律する法則はあらゆる種類の倫理に於て最も深い興味を誘ふものである。**完全なる調和を得んが爲には古來種々の說がある。**ストイック派の人々は、宇宙の原則と自らを一つにして自らに打克つことを主張し、エピクーロス派の人々は快樂をもつて最上のものとし、ソークラテースは智識を最上とし、スペンサーによれば彼の倫理觀は最大多數の人々の最大幸福を計るにありとする。さらばキリスト教に於ては、人と人との間の人間の行を律するに如何なるを法則を用ふるかと言ふに先づ第一には彼のルカ六章卅一節及マタイ七章十二節にある黄金律、即ち、なんぢ人に爲られんと思**ふごとく人にも然かせよ」である。人が自分に對し**て爲てほしい樣に、人にもしてやる。是キリストの黄金律であつてハルナックは此言葉は、キリスト教

的倫理の頂點だと言つて居る、バーナード、ショーは是を批評して反對のことを言つてる、「他の人が汝にすることを爲すな、黄金律は黄金律にあらず」と。ハルナックの評は早計である。ショーの批評は原則を文字通りにとり揶揄し過ぎた弊がある自分を他人の位置に置いて、自分が他人の位置にある時に他の人からしてほしいと思ふやうにしてやると言ふことが其意である。併しながら是は特にキリスト教の產物でなく、他から借りて來たものである。何故にかくすべきかの問ひに答へるものでない。眞の黄金律は愛の誡である。これはマタイ廿二章卅六から卅九レビ記十九章十八、マコ十二章廿八―卅一などに見出される。既に舊約に其暗示が與へられて居るのでイエスの創見ではない。そして其處には制限がある量の上から取る時と質の上から取る時がある。カントは人の中には男女老弱の別なく人性がある故に質の上から愛せよと言ふ。何處に愛さなければならぬと言ふ聲が出て來るのであらうかキリスト者が自分を見る時に我には欠點がある。死んだ人が、我の如く汝の隣を愛するは如何、己は何故に愛すべきであるか。眞にキリスト教倫理に獨創的のものを見出さうとすれば、ヨハネ傳十三章卅四節及十五章十二節の新しい誡命「汝等相愛すべし。わが汝らを愛せしごとく汝らも相愛すべし」と言ふ所に行く。是を見る時、キリストが天國に於ける人と人との關係、愛の標準が知れる。イエスの人を愛せし如く、唇をもつて行をもつて、全生活をもつて人を愛したそのことを盾として■■、我汝等を愛せし如く相愛すべしと命じ給ふたのである。

愛に階級がある。細きと太きがある。凡ての愛にキリスト教の意味をつけ、これを深めて行かなければならぬ。ギリシャの系統哲學の倫理は無力である。キリストの教ふる愛は、キリストの生涯が裏書をして居る。世界成就し用意のなつた時此世に生れ、卅才で起ち、短い生涯の間によき働をし、最後に血を流して我汝等を愛する如く汝等も互に相愛せよと告

げられたのである。愛の實行者なる彼が癩病人シモンの家にて食し給ふ事は日常の一些事であつた。我々が癩病人に接し其家におとづれ茶をのみ菓子を食することはなか〳〵容易のことでない。大なる愛の聖火が燃えなくては出來ることでない。イエスの態度は明かに彼の愛を語つて居る。我々は人間の知り得る丈を信じ、他を避けんとするは過ちである。主の愛の深さ、高さは計り知られぬ。キリストが十字架につき給ふ時血しほのしたゝりで祈り、父上よ聖旨ならば此盃をとり給へされど我心をなさんとにはあらずと祈り給ふた。避けんとせば出來たのだ。是を避けんとするは人の子の心根であつた。而し小我を捨てゝ、大我に生くるイエスの芳しい十字架……萬人の爲に十字架の死をも辭し給はなかつた愛は人間の小さな理性で計り知られざる所である。キリストが、自ら眞の愛の生活を歩み、十字架の道をとり、我汝等を愛せし如く汝等も互に愛すべし。日本語では高い響を與へぬが原文では高き響を傳へて居る。キリストは倫理の最高點である「我は生命なり道なり、誠なり」。實に自ら罪なき、愛の結晶の主の敎へ給ふに愛をもつてし給ふた。これキリスト敎に單一な古今無比の敎である。

新しい誡に三つの部分がある。

一、愛の擴がりの廣大無遍なること。マタイ五章四十三—四十四に「なんぢの隣を愛しなんぢの仇を憎むべしと言へることあるを汝等きけり。されど我は汝らに告ぐ、汝らの仇を愛し、汝らを責むる者のために祈れ」と敎へ給ふた。

二、强度に於て無比である、單一である。ヨハネ十三ノ一に「世に在る己の者を愛して極まで之を愛し給へり」とある、これ一時的でなく、死に至る迄つゞく强さである。ヨハネ十五ノ十二—十三「我誡は是なり、わが汝らを愛せし如く互に相愛せよ。人その友のために己の生命を棄つる、之より大なる愛はなし」。上からの革命的の力がなければ、罪をとゞむることは出來ぬ。此の世の中が亂れる時に、腐敗

する時に、イエスの十字架を見ることが出來る。革命の十字架が愛の象徴と化したのである。憎みと恥かしめとが愛と化したのである。改造があるとすれば、十字架があらはな姿となつて吾々に見え、その上で我々は世と肉と惡魔とに戰ふことでなければならぬ。神の獨子イエスがカルバリの山上で十字架にかゝりし其十字架は一朶の生命なとつた。

如何なる方法で社會が淸まり、個人が淸まるか、これは各自の實驗にてらすべきである。人と人との間の有機的關係を十字架によつて律する。吾人は此幻（世人は笑ふかも知れぬが）常に此ヴィジョンを見て勇士として戰はんとするのである。

三、宗敎的根據。キリストは絕對に神に土臺を置かれてゐた、我此世に來るは父の聖旨をなす爲だと常に言はれてゐた。（完）（文責有記者）

クリスマスを迎ふ

I　S

「ほしかげの匂ふ　きよきひとよ
ひとりのをさなご　天降りましぬ」

おゝその歌が、日曜學校の子供たちの可愛いゝ心で、あちこちに、歌はれる時になつた。子供たちの喜びにみちた樣子、何をも疑はない眞直な心は、何てその歌をうたうに適して居るだらう。私たちは彼等の樣子が羨しくてたまらない、彼等の心が貴く思へてたまらない。

けれど、その同じ喜びは、彼等丈のものではない。私たちにも與へられてゐるではないか。純でない心が扉を明けやうとしないのではないか。

喜べない心、驚異のない生活ほど、悲慘なものはあるまい。そこには展開もなければ向上もない。沈滞とゆき詰りである。暗黒の中に眠つて居るやうなものだ。

私のたちの心、何回、又は何十回、此のクリマスと云ふ出來事を經驗した私たちの心も、幾分もうゆきづまりを感じて居るではないか。それが故に、此の事が驚異として、我々には映じないのではなからうか。

「喜べないものはしかたがない」。といふ心も我々はもつて居る。我々は確かに或新らしい出來事に對して我々の耳目をそばたてゝゐるやうに思ふ。しかし此のクリスマスと云ふ出來事、此の日に神の子我等の救主が生れ給ふたといふ事を信じてゐる筈のクリスチヤンにとつては、此の日は何といふ意味深いも

のではないか。

我々はお互に誕生を祝ひ誕生日を祝ふ。生みの苦しみから得たみどり兒を抱く母の喜びはどんなであらう。そして第一回、第二回と誕生日の來る毎に感ずる母のほこりと感謝は、どんなに純なものであらう。

只一人の平凡な子供の誕生と誕生日に對してさへかくも眞劍に、その母は考へ得るではないか、然るに我々が我々の全生活を托し、全生命を以て賴つて居るその人の誕生と誕生日とを、何等の驚異なしに迎へると云ふ事はどうした矛盾なのであらう、たとへ何回、何十回繰り返された今日といへども。

我々は靜かに反省して見なければならない。我々ははたしてクリスチャンであるといふ事に、心一ぱいの感謝をしてゐるであらうか、我々の目は、はたして救はれた感謝の涙を、常にやどして居るであらうか。我々はあまりに學問に沒頭し、事業に沒頭するためにいゝ加減に忘れて居るではないか。

そして、その忘れてゐるといふ心の傷手には、なる丈ふれないやうにとつとめてさへ居るではないか。

おゝ不徹底な生活よ、そこには何の意味があらう。そこには何のクリスチャンの生活としての誇があらう。

私たちは目をあかねばならない。私たちは此の沈滯した生活に、展開を與へねばならない。勿論眠い者が目をひらき、沈滯の中に展開を求める事は、非常な苦痛と努力が伴はずにはなされない。

我々は時々、否殆ど總ての時に、あまりに虫がよすぎる。苦しまずに、よき者を得やうとする、しかし、苦しみと努力のない所に、何が生れやう。涙を流す事なしに得た友情でも戀でも、それは如何に幼稚な、少女小說であらう。沈默の宮殿の中のみに經驗され展開する涙ながらの感謝、貴い眞面目な喜びおゝ自分の手を觸れ、口にするさへ、あまりに聖いそのよろこびの心持は、生みの苦しみの後でなけれ

ば得られないものではあるまいか。

かう考へてくる時に、我々がクリスマスといふ出來事に、何らの意味をも感じないと云ふのは、我々の不徹底さによるのではないかと思ふ。信ずるならもつと眞劍に信ずるがいゝ、そこで、眞の自分を見出し、自分の生活に意味を見出す迄に、疑ふなら、どん底まで疑つたがいゝ、只一つの根本的眞理をつかむために、あのやうにも勇敢に一切のものに懷疑の鋒を向けた哲學者を考へると自分は眞面目にならざるを得ない。今や、我々の不徹底な心は、自然の鋭利なメスが與へられなければならない。即ちメスをふるふのは自分自身である。その流血の苦しみの第一歩をしつかりと踏みしめてから、もう一度十二月の星づく空を仰いで見るがいゝ。

おゝ十二月！　つたない言葉で云ひ現はすには、あまりに大きくあまりに貴い感謝ではないか、今更ながらに、天と地の偉大さに心ふるはせ、今更ながらに創造の微妙さに涙ぐまるゝではないか。おゝ星も、空も、木も、草も、みな無言の中に展開してゐるではないか。十二月の寒空に立つ、葉の落ち盡した木の小さい枝先にも、なほ生命が通つて居ると云ふ事も不思議ではないか、喜ではないか、おゝそれらにも増して、我々の心に、眞の自由と、眞の平和とを與へ、我々の生活をして意味あるものとなし給ふた方の御誕生と云ふ出來事は、あまりにも大きい驚異となつて感じられるではないか。我々は心をふるはせて祈らずには居られなくなるのであらう、涙を流して感謝せずには居られなくなるであらう。

我々は、はじめてハンブルになり得るのである。はじめてをさなごの心になつて、彼等の歌がうたへるのである。

怠惰な眠から目覺めて、お互に意味ある十二月を持たうではないか、お互に感謝にみちた心で、星づく空を仰いで祈らうではないか、そして心から歌はうではないか。

「ほしかげの匂ふ　さちなる夜に
われらはつどひて　ベツレヘムの
ひつじをかふもの　昔に見しごと
エス君を見ばや　きよき此の夜」

英 文 欄

CHRISTMAS PRESENTS

Sometimes when we want to do something for our mother to show her that we love her, we bring or send her flowers, sometimes we take her to some place we think she will enjoy, sometimes we just tell her as best we can, how much we love her, and sometimes we remember always in our hearts what she wants us to do and be, and our love goes out each day in a longing to be a better and finer person, to be more kind and helpful because we know she wants us to be. Which of the ways of showing our love do you think a mother wants most?

A boy goes away to school in Tokyo. Very often he sends gifts to his mother, but no letter. On else he sometimes sends letters to her that are written from a sense of duty. He perhaps sometimes goes home to get some new clothes. That mother would give up all those things if she could just have the knowledge that her son really loved her, that he was growing into a fine strong man, that he was still ‘her boy”.

There is a belief in some countries that on Christmas eve the Christ child goes wandering, seeking for love, and that we must put a light in our windows so that if he should pass that way, he would know that there was a welcome there. And if he enters the home, that home becomes the home of love and peace. Do you not know some home where the Christ child has entered in, where he has been loved, and where there has come love and peace? Isn't it the same way with our hearts? Ought we not to keep a light in our windows there so that the Christ child may enter in, so that all who are poor or needy or lonely may know that they will be welcome in our hearts, and that we will share with them the best we have. And do you not believe that if

we welcome Him, or any of those he calls his brothers, we will find love and peace growing in our hearts?

How many different kinds of gifts men have given God! Beautiful temples, great music, many buildings, many words, much pain and suffering, much joyful service. God, looking down on earth, sees not the buildings or the temples, but He sees the hearts of men, and knows how true the gift has been. Some people give money, some give time in a sense of duty, but some give their lives in a deep longing to serve, so that even the people who meet them on the street, or the children, are made happier by their passing.

"I never heard that girl say any anything unkind about anyone", said somebody to me. I am sure into that life the Christ child had entered.

"She never seems unhappy or discouraged, though I know she must be many times, and she makes me ashamed to be so unhappy about my little troubles," said somebody else. Do you know the gift she was making to God?

Christmas and New Years time is the time of giving presents, and we must choose what our gifts shall be. We will want something more than the things which one can touch and see, for we must make our friends know how dear they are to us. And so it is with our gifts to God. They are not real gifts unless in our hearts is the longing to present our whole lives to Him.

Jesus lived and loved and suffered, and gave his gift to the world bravely, without turning aside when he was weary, or when pain and trouble came. He gave *Himsel.* Can you and I do that? Can we say to our Father, "Father, here is my gift to You, my love for Thee. Help me to make it more beautiful and sweet each year, so that when mylife is ended, I may be worthy to come to Thee."

聖書研究

ヱス傳概略（其二）

イヱスの宣傳

武本喜代藏

馬太傳四章十七節以下、同十六章廿迄を大別すれば專らイエスの宣傳です、天國のプロパガンダです、或は律法を列擧し、又は訂正し、力の發表たる奇跡異能に依つて神の國を宣傳し更に十二使徒を選定し派遣して同じく神の國のプロパガンダを成し給ふたのです。

四章十七節の「天國は近けり悔改めよ」との御言が抑宣傳の第一聲でした、イエスは人類の王として來り、將來開かるべき王國則天國を宣傳すべく努力し給ふたのです。從つてキングドム則王國と謂ふ語が此馬太傳丈けでも五十回から出てゐます、神の國、御國天國等何れも同意で基督が將來王と成り給ふべきキングドムを指してゐます。

（一）天國、多くの人々東より西より來りて……天國に座し」、「天國は爾らのもの也」、「天國の福音」「天國を取らんとす」「天國は芥種の如し」「天國は好き眞珠を……」「天國のカギ」「天國は燈をともして……」

（二）神の國「神の國と其義しきを求めよ」「神の國はもはや爾らに到れり」、「富者の神の國に入るよりは」

(三)御國、「御國を來らせ給へ」、「國と權と榮は………」

「國を爾らに與へ給はん」「人の子其國をもて來るを見る迄は……」

以上の如き主の言は果して何を意味してゐるのでせう、天國とか御國とか云ふのは未來的でせうか、現世的でせうか、或人々は十萬億土の極樂淨土のやうに天の一方にある樂しい國と思ひ、茫乎と只夢の如くに信じてゐます、併し主の言の意味は我々が天國に行くと謂ふのではなく、其反對に天國が此に來るゝと謂ふのです。

昔ロマのコンスタンチン大帝が改宗して洗禮を受けました時、當時の信者は天國が來たと云つて喜びました、が併しそれは勿論誤解でした、今回の世界大亂が收つて、いよ〳〵平和の光が地上を照らした時「我々は眞に基督の勝利と思ひ、天國の實現も遠くないかの如く思ひましたけれども、今日迄の世界の形勢は只失望の外ないのです、各國それ〳〵利己心や、慾念が熾んで、依然として互ひに爭つてゐます。

然らば此天國とか神の國とか云ふのは單なる形容でせうか、斷じて然らずです、勿論靈的の王國に相違ありません、靈が第一で、形態は第二です、けれども主の全體の御言葉から推察するに、之れはどうしても靈的であると共に、少くとも靈化されたる有形の社會でなくては成らんと思ひます、則メッシャの王國として此地上に現はるべき半ば靈、半は形質的な社會でなくては成らんと思はれます。

例へば私共現在の生活は物質的、形體的です、一度死すれば全く靈界の純然たる靈生活に入ります、が併し復活の日に及んで私共は甦りのイエスと同じやうに靈化されたる形體を與へられ、再び現在の如き同じ生活は復り、主の御言の如く神の國で飮食することさへ出來るのです、之れが我々の理想卿で、最早死もなく涙もない境遇です、天國です。

私共の今住んでゐる。此地球は幾千萬年の久しき

神の指導の下に進化して來ました、曾ては猛獸の嚙み合ふた伐殺な場所でした、其後人間が現はれて今日のやうな文化生活を營むやうにも成つたのです、けれども今日の人類社會の現狀は果して神の理想の世界でせうか、靈的にはやつぱり猛獸と猛獸との嚙み合ひ、殺し合ひの場所ではないでせうか、若し此地球が此儘で、忽焉其終局を告げて了ふやうな事があれば私は神樣は決して賢い方ではないと思ひますこんなに不完全な、災禍の多い世界を此儘で御終ひと云ふ事なら之れ迄幾千萬年の長い〳〵間の準備は何の爲めでしたか、一切が無意味に感ぜられるではありませんか。

私は人間の體が復活して榮光の體と化するやうに此地球も御約束の如く靈化して、あらゆる有害の毒物は除かれ、惡人は亡ぼされ、義人のみ復活して主と共に永久に王と成るべき時がキット來るに相違ないと信じてゐます、それでこそ初めて世界創造の目的が達せられたのです。

此神の國、天國の王は無論キリストです、侮辱された主は榮光の王として再び地上に臨み給ひます、其時義人は日の如く輝きます、多くの忠實なるクリスチャンは墓の中より甦されます、「人の子榮光の位に座はる時……」「人の子己れの榮光をもて諸々の聖使を率ひ來る時は……」ピラト「爾はユダヤ人の王なるか」イエス「爾の言へる如し」、此等の御言を研究すると主が天國の王として再來し給ふと云ふことは決して疑はれないのです。

此天國を宣傳すべく主は降世されました、天國が來る〳〵悔改めよとの言が主御一代のプロパガンダでした、天國に入る唯一の條件は只此悔改です、改心が天國への入場切符です、改心しないものは何人も決して天國の門へ入るべき資格がないのです、悔改めとは無論從來の神と人とに對する不信仰、不親切の態度を棄てゝ全然神第一と成り、一切を神の爲めに献げて行く事です、人を愛し、敵をも愛することです。

此天國を宣傳すべく主は殊に十二人を選んで使徒と名け、病を癒し、說敎すべき權能を與へ、イスラエルの迷へる羊へと派遣し給ふたのです、十二使徒の多分は何れも下層民で、無學の民でした、けれども。世界は少からず彼等に負ふ所があります、彼等の生命掛けの宣傳に依つて福音は到る處に傳はつて來たのです。

天國宣傳の重任は必らずしも學者、有力者にのみ托せられず、却てペテロや、ヨハネのやうな單純質僕の民に委ねられました、イカケ屋のペンヤン、靴屋のフオツクス、又はムーデー、何れも無學でしたけれども神に選ばれた器で、一生懸命、主の福音宣傳に努力しました。

使徒の名を列擧すれば左の如くでした。

(一)シモンとアンデレ、ベテサイダ村の漁夫ヨナの子供、シモンはヘブル語でケパ、ギリシャ語ではペテロと云ひます。

(二)ヨハネとヤコブ、同村の漁夫ゼベダイの子供母はサロメ、聖母マリヤの令妹でした、從つてイエスと彼等とは從兄弟でした。

(三)ピリポ、同村民、約十四〇に「主よ我等に父を示し給へ」と云つた人。

(四)バルトロマイ「バル」とは子の義、故にトロマイの子と云ふ意で、誰かハッキリしません、多分ナタナエルの事でせう。

(五)トマス、デドモと稱ふるトマス、主の甦りを疑ひました、併し親しく復活の主を拜した時「我主よ我神よ」と叫びました。

(六)マタイ、アルパイの子、レビが本名で、マタイは別名

(七)アルパイの子なるヤコブ、ヨハネの兄弟のヤコブを大ヤコブと云ひ、此を小ヤコブと稱す。

(八)ダッタイと名くるレッパイ、此人元はユダと稱せしもイスカリオテのユダと同名たるを厭ふて變名したらしい。

(九)カナン、のシモンカナンは地名、

（十）イスカリオテのユダ主を敵に賣つたもの。

主の一代は要するに天國の宣傳でした、弟子達も又主と共に生涯宣傳に從事したのです、尤も前にも云ふた通り、宣傳は只口のみではありません、同時に力を以て宣傳しなければダメです、故に主イエスの宣傳は熱火の如き雄辯であつたと同じやうに、病を癒し、鬼を追ひ出すやうな實力實權でした、去ればこそ弟子達も其宣傳旅行の首途に當つて「彼等に汚れたる鬼を逐出し、又すべての病すべての疾を醫す權を賜ふ」たのです。かくて天國の福音は今日迄世界の到る所に偏く宣傳されたのです。

ヨセフのモノローグ。

マタイ 一、一八—二四

村岸榮子

「マリアが妊娠した。しかも聖靈による妊娠だと？俺はあの時齒をがちがち言はせ乍らわなゝく兩拳を力の限りに握りしめて、マリアの顏に窒息し相な苦しい息を、はあはあ吐きかけて居たのを覺えて居るマリアは其の時、自分で言つて居る事に氣が注いて居たのだか居なかつたのか極めて平然と、それがあたりまへの事でゞもあるかの樣に耻し相な顏一つ見せなかつた。當惑相でも辛相でもなかつた。彼女は一種の優越感すら交へたやうな傲慢に近い、きつい瞳を擧げて、まつ直に俺の眼に見入り乍らこんな事を言つた。

「ヨセフさん、まあそんなに顏の色を變へて、……

おしまい迄話を聞いて下さらないといふの」

「お終ひも始めもあるまいぢやないか、事實に二つはないんだらう、どこまで行つたつて一つの事は一つさ。」

俺が絶望の極捨鉢になつてさう言へば彼女は一寸取り繕つた樣なまがほになつて、づる相な微笑に似たものを口邊に浮べた。俺はそれを見ると一層に屈辱を感じて長々しいだもらしい考慮ある辯解を用つて俺を瞞着にかゝつて居る對手の女を憎む憎惡と憤怒とにたけり立つた。憎しみと憤りとに心が燃え熾つた刹那、俺は俺の上體がふらふらとなつて倒れ懸るのを覺えた、そしてマリアの慌てた長い腕で抱き止められ乍ら、俺の口からは恐しい大きな怒聲がつつ走つた。

「マリア、いつ、どうして、聖靈の誰と？」

「エホバの神樣を汚してはいけません、ヨセフさん聖靈は神樣から降るものですわ」

「だから聞くのだよ、一體お前の神樣といふのが誰なんだかと」

「まああなた、これがいつものヨセフさんなんですか、あんまりひどい、あんまりひどい」

マリアは此の時歔欷を始めた樣だつた。俺はその姿を見ると、一氣に燃え上る嫉妬と憤怒とを掻き分けて、女に對する憐憫の情が割り込んで來るの氣が注いた。そして俺はひとりで心の中にいゝわけを言つて居た。

「だつて、マリアお前が惡いのぢやないか、俺がこんなに短氣になつたといつたつて、お前の方には恨む理由がないだらう。俺はいつもお前に對して深切だつた、仲間に笑はれる程やさしくして來た、いや俺はお前に尊敬迄して居た。何故ならお前はいつも舊約聖書を讀みエホバの神を信ずるに篤い女だつたからだ、お前は俺の知らない舊約の智識を多く教へて呉れた、俺がその度毎にひそかに感嘆の眼を瞠つて居た事はよもや知らないだらう。マリアよ、俺はお前を愛して來た、女を愛する男の注意か女の周圍に

賢くまはる事をお前は知らないのか。俺は疾くに知つて居た、お前の身體の變化をまつ先に見出したのは俺をおいて他にはあるまい。私たちの道、さう名附けて共に歩く事をしたヨルダンの川べりに群つて咲くお納戸や淡藤の矢車草をお前は本當に好いて居たから俺はお前を喜ばせるつもりで、莖の高い大輪な處を摘んでお前の手に持たせやうとしたら、お前は出しかゝつた手を引つ込めて。おゝ臭い、いやな匂と言つて顔をそむけたね。あの花は殆んど無臭だよ俺の不審の第一歩はそこから始まつたのだ。この口お前は荊棘を見て「憎しい、こんな棘々したものなんかなぜあるのでせう」と呪つた。この時も俺は荊棘をかばつて「エホバの神の細かいお心遣ひには驚きますね，こんな荊棘ですら遠目には美しい花を澤山つけて居る樣に見えます」といふいつものお前とは全然別なお前を見たのだ。俺はお前の神經が異常に尖つて居るのに感附くと、恐らくお前の身體の都合だらうと斷定して憚らなかつた。二回目に逢つた時お前はあの香りの強い百合畑の傍で眩暈がするといつてよろよろ倒れかゝつた、誤解してはいけない、俺は試さうとして故意にあの道へ連れ出したのではなかつたのだ。それから無花果を扭いで喰べ出したらお前は激しい嘔吐を續け樣にした。驢馬と行き違つては臭いと言ひ、無花果の味に胸が惡いといふ俺の不審と疑惑とは深くなつた、そして或事をハッと思つた、同時に俺の全身の血はかつと非常な火花を散らして燃えた、俺はその熱さが俄かに速度を早めた心臟の蓋の開閉に伴つて、ドックドックと凄じい勢で體内にめぐり出したのを意識した。然し俺は一瞬間の後又は冷靜な俺に歸つて居た。そしてあるべからざる事を妄想した俺の不純な心と、敬虔な美しい處女を穢した醜い心のために痛恨と羞耻の涙を流して居たのだ。三度目に俺達は逢つた、俺は何故まつ直にお前と一番始めに逢はなかつたのだらう。それがいけなかつた、最もいけなかつた。女達は手柄の樣にしてお前の身體の變化の事を俺に告げ

た。いや彼等にもかもしれない事實を、此の俺に依て確め樣とするさぐりの心であつたのかもしれない。「堅藏さんで通つてるお前さんにしては隨分機敏だつたね。ついでに公然と祭司樣の前へ出たらどうですかね」などゝ言つた女もあつた。俺は俺の妄想だともがき苦しんでやうと鎭めたその事を、はしなくも、他人からつゝきほじられて數倍にも增した痛みを抱いて。獸の樣に狂ひ走つて驀然にお前の家へ來たのだ。お前に逢つたら凡ては難なく解決される。お前は言下にそれを拒絶するだらう、そして俺の心の痛みを取り去つてくれるだらう。かう俺は信じて來た、だのにお前は言ふ、惡怪れもせず言ふ、「さうです、妊娠です、でも聖靈に依てなのです」と。あゝマリアよ、マリアよ、お前には此の俺の身悶えが解らないのか。解らない、解らない、といつてくれ、謎を、聖靈の謎を！　聞き度い、聽かしてくれ、すつかり。」

俺の眼の兇猛な憤りの色が次第にゆるんでその跡に懇願的な哀訴の殘るのを認めると彼女は元氣を盛り返して話し出したのだつた。

「ヨセフさん、お話してもいゝ？すつかり」

俺は默つて眼で返事をした、彼女の話によれば、彼女はいつもの通り朗かな二月の曙の空を仰ぎ見つゝ、兩胸に手をおいて「諸々の天は神の榮光をあらはし空蒼はその手のわざを示す」と敬虔に滿ちた思でエホバ神の大能を讃美して居たといふのだ。彼女は紫色に或は黃金に彩雲の流るゝ驚異に胸うたれて恍惚として居る間に、パッと神の玉坐が開けて天使の群の光り輝くを見たと云ふ。彼女はその異象に恐れ戰きつゝたゞ懸命にイザヤの書の中より「エッサイの株より一つの芽出で云々の譜を誦して居たのだ相だ。一と句切りの歌の譜が唇から消えると眼前には天使ガブリエルが立つて居た。彼の顏は此上もなく威嚴ある美に輝いて居たが片手には巾廣の劍を高くかざして居たので彼女は怖れたと云ふ。

「マリアよ、懼るな、エホバ神お前をよしと見給ふ

お前はイエスと呼ぶメシヤを生む、お前は女の中で最大の惠みを受くる事を喜んだらいゝ」

ガブリエルがさう言つて傳へた天の使命は彼女には速かに解されなかつたといふのだ。彼女の頭には此の俺が入つてたからで、そのため彼女は反問したのだ「ヨセフと聘定して居ますことは？　では早く結婚をしますのですか」と。そしたら「聖靈による妊娠だから身體を穢してはいけない」と告げられたといふのだね。そしてはぢめてはつきりと我に歸つた時、自分の耳のそばに蝶々が止まつて居るのを知つたといふ程に彼女は氣を悉く奪はれて居たといふのだ。だが玆で俺は考を纒めねばならない。天意を語つたといふがガブリエルが誰か、彼は男の天使ではないか。そして聖靈とは何者か。或はガブリエルに似まがふた男に劍で脅されたのではないのか。マリアよお前達女が競つて描いて居るメシヤの母たらんとする空想が、エホバの名を騙る惡魔にたぶらかされて宗教的狂想の一種となり、恍惚裡にガブリエルを作り聖靈を作り上げたのではあるまいか。或はお前は常日頃から美はしい信仰の處女だ、だから暗の空の驚異を感ずると美しく、お前の神經には異常昂奮が起つて、神の子を宿したといふ誤まつた確信を持つに到つたのではないのか。さうだ、神經妊娠だらう、それに相違ない。神經的に妊娠したお前のために俺は何もこんなに苦しむ必要はないぢやないか。俺は救はれた、ほつとした。そしてお前に同意を求めた時にお前の態度は頗る傲岸に見えた。聰明な決意を輝かせて飽くまで俺の申出を否認するお前の權威、憎んでも厭ふても憎み足りぬ筈のお前に、俺は一種の壓倒をさへ感じた。「ではお前の操のためそして俺の名を辱しめないために俺の子だと言へ」といふ俺の犧牲的愛も拒けた。更に結婚の申込みをもうけがはない。ではどうしたらいゝのだ、俺はどうすればいゝのだ。お前と離縁するたゞ一途あるのみだ。離縁しやう、俺とお前とは路傍の人にならう。マリアよ、幾度か俺を高きに引き上げてくれたマリアよ、お前はイエスと呼ぶ聖靈の子を產むがよい。俺はお前と他人にならう。そしてお前の行き懸つた道を妨げないだらう。俺は人生の潮時に五分間おくれた人間だつたから萬事を時の解決にまかしておとなしく引き下がるのだ。俺は來るべき十二月に生れる小供と面接して聖靈の誰なるかを知るだらう。さ

らばマリアよ、心おきなくお前の道へ行け。俺がかういふ意味で宣告を下すと彼女は悲しげな眼に涙を湛へて、默つて大きくうなづくと其儘しほしほと立ち去つたのだつた。

俺はその夜一睡も出來なかつた。猜疑、嫉妬、怨恨、憎厭の幻像は勝ち誇つて俺を取り巻いた。曉方になつて俺は燃ゆる火の玉に對つて立つて居た。それはガブリエルの眼から放たれる光であつたのだ。

「ヨセフよ、醜い疑惑を去れ、お前の選んだ女が神のえらびに與かつた事を幸福としないのか。マリアは心美はしく信仰篤き處女である。されば凡ての女にまさつて此の無上の光榮と幸福とをエホバ與へ給ふ。即ちエホバ最も神に近しと見給ふマリアに依て人間の救ひを完成し給ふのである　その子はインマヌエル、神これと常に共に在り給ふ。ダビデの裔ヨセフよ、マリアを娶る事を懼るな」

俺はガブリエルの言葉をきくと、なですかさるゝ樣に、平かな思ひになつてすや／＼と眠りに落ちた。眼醒めた時、俺は感激の涙にひたつて居た。「美はしい處女マリアよ、純潔なる處女よ、聖靈をみごもれるマリアよ、俺はお前の崇高なる信念の前に跪かねばならない」。我が妻となる日の前に、大なる業をなすべき處女よ、エホバの惠みによつて大任を果し、新しき種族の母となれ」。俺はかう心に叫びつゝ起ち上つた。

昨日の俺に引き代へて氣も心も爽かな今朝の喜ばしさよ。憎しみと嫉みの心が跡なく消えて、かうも速かに、かうもすなほに神意を容れ得た驚異よ、エホバのみ奇蹟を行ひ給ふ。エホバはマリアに行ひ給ふたと同じ奇蹟をこの俺にも働き給ふた。我心に觸れた啓示、我心に働いた奇跡、俺は今始めてマリアのあの強い信念と相觸れた。俺は彼女をあがめねばならない、聖き器にえらび出された彼女の德をたゝへねばならない。行かう。俺はマリアに逢はねばならない。」

信ずる者の胸にのみ神は現れ給ふ。惡魔はその、棲家を追立てられてヨセフを離れた。

希望の光

岡崎小文

「幽暗を歩める民は大なる光をみ、死蔭の地にすめる者のうへに光てらせり。……そは汝かれらがおへる軛とその肩の笞と虐ぐるものゝ枝とを折りてミデアンの日のごとくになし給ひければなり。すべて亂れたゝかふ兵士のよろひと血にまみれたる衣とはみな火のもえくさとなり焚るべし。獨の嬰兒われらの爲に生れたり、……政事はその肩にあり、其名は奇妙、また議士、また大能の神、としての父、平和の君と唱へられん。其政事と平和とは増し加はりて窮りなし且つダビデの位に座りて、其國を始め今より後永久に公平と正義とをもて是を立て、これを保ち給はん」。

熱誠あふるゝ豫言者イザヤが二千六百年前にユダヤの國々に叫んだ聲、それは一千九百廿一回の聖降誕祭を迎ふる今、世界の國々に警鐘のやうに響を傳へて居ます。「幽暗を歩める民は大なる光をみ、死蔭の地にすめる者のうへに光てらせり」あゝ其光が吾々人類の上にてらしてから二千年近く「されども暗きはこれを悟らざりき」とヨハネが言ひましたやうに幾多の民衆が光に無頓着な生を送つて居る事でせう。私達は耳を閉ぢ、眼をそむけました。否え光は見度いのです。てらされ度いのです。死蔭の地から逃れ出度いのです。だのにいつまで嫉妬、憎惡、怒、恨、不平、爭闘、毒舌の中に苦しんでゐるのでせう。地につける我がおぞましい勢力をはつてゐるからです。己が生命を得んとするが故に死蔭の地にすむの

です。そこに陰鬱な家庭の空氣をつくり、荒んだ環境を作り出すのです。又戰は大か小か始終歴史に波を寄せかへして、血にまみれた衣が、父の聖旨をどんなにか痛めまつりて居る事でせう。幸にも今回の華府會議で軍備縮少問題が盛に討議され、永久の平和の曙光が輝きそめました。しかし軍備徹廢までにはまだ〳〵遼遠でせう。先日内村鑑三先生のお話の中に、一體、日本の總收入は一ヶ年十四億六千萬圓だが其内八億四千萬圓は、陸、海軍の爲に、二億三千萬圓は公債を拂ふ爲に用ひられ僅に殘四億幾萬圓かゞ敎育、產業、其他文化改善の爲に費されて居るので國家の收入の大部は戰の爲に用ひられ、爲に男女の惰落。入學難引いて家庭の波瀾となる。是神の聖旨に背いて居るからで、同胞を殺しあつて居るからである。此恐ろしい戰は如何にしたならばなくする事が出來るか一靑年、これが中止法を案出して若世界中の女が軍人とは結婚しないとなると戰いは止むと言つたが、而し平和を實行する者は主イエスキリストの感化力である。平和は人間の力で來るものでない。神の國と正しきとを求むれば自づと平和は來るのである。主イエスキリストを自分が迎へ、人々に迎へさせるこれに勝る平和運動はないと說かれましたが實に主が全世界の人々の心に迎へられました時に人々の聖殿を傷ふ武器も、醜惡も皆火のもえくさとなつて姿を變へませう。

「黑鐵の扉を打破きて捕虜をはなてる
主は來ませり
常暗の世をてらし給ふ天つ御光の
主は來ませり
しぼめる心の花を咲かせ惠の露を〳〵
主は來ませり」

人がつくられました。本來の目的を忘れ、盲目の衝動生活につながれて（これを否定するのではありません靈の支配の下に淨化されゝばよいのです）常暗の中に心の花のしぼみゆく、時ゐしくも輝やきわたるベツレヘムの星がありますならば、それは恩寵

であり攝理であります。此光は二千年昔のものであつたのでなく、今猶光の君は、救の主キリストは信仰をもて憧がるゝ者の胸に宿つて下さいます。鐵の鎖でも打破れない黒鐵の扉は愛の力に觸れます時やすく／＼と開いて、罪の捕虜からはなたれ、自由の人となり、天の光にてらされて、惠の露にうるほうて美しいシャロンの花が咲き出るのです。咲き出た花は自らの美しさに氣がつきませぬ。のみならず、常にみにくさと、弱さと、愚さと、冷たさとを感じ、到達し得る至高の美と强さと、賢さと、ゆたかな愛の人となり得ん爲に歎きながら祈りますそうした心が朝露のやうに其花を養ふのです。

年々にあざやかに希望の光がさしそうて來ます。勿論暗も擴がつて參りますが。一體どうして光が吾々の中にそゝぎ込みませう。全精神を神に向つて開けばよいのです。昔羊牧者が我萬民にかゝわる喜びの音信を汝等に告ぐべしとの聲を聞きましたが、其萬民に賜ふた福音とは何ですか。これイエスの人格と生涯とです。此聲を聞き此君の人格と生涯とを見る所に私どもの生命は神とつながり、光と生命とがそゝぎ込まれます。イエスの我々に示し給ふた最大福音は神の國であります。神の國に關しては數回に渡つて小島先生の御講話の概略を出しました故御再讀下さらば幸ひです。しかしあれで神の國の全部が明かにされたと申すのではありません。これは重大な問題で、キリスト教の神髓であります故に研究考索し祈りを以て啓示を受け、眞意義を解し、神の國の生活を自ら歩み、やがて來る更に輝ける日への一歩を進めますならば吾々がクリスマスを祝ふ意義が一増あざやかになり深くなります。

「今より後永久に公平と正義とをもてこれをたて、これを保ち給はん」此貴い業を完成する爲に神は吾々人間をお使ひ下さいます。神の國の成就の爲に、私ども小さな手がつけさせて頂けるのです。クリマスを迎へるにつけても愛の君に捧ぐべきものは愛であります。歌ふも歌はぬも心をあはせて、光の君を

ほめまつり喜びのおとづれをつげ擴めたものです。
自らの力なさと愚かさと、弱さに歎く我等は自らのみでは咲き得ない、思ひもよらぬ美しいシャロの花を咲かせ得る、愛の君、救ひの御子の御誕生日を祝ひまつりますせう。

島の乙女

村岡花子譯

二

程なくマーチは先刻の娘に食卓へ案内せられた。食卓の給仕も矢張同じ娘で、湯氣のフー／＼立つて居るスープが先づ第一に出ると、次ぎには鱸のフライ、それから此處へ來てはお定りの鴨の炙燒、最後には果物の砂糖漬といふ献立であつた――砂糖漬は野葡萄で、薄い金色の汁の中から堪らなく香ばしい匂を放つて居た。

マーチは生來が陽氣で親切氣に富んだ青年だつたが唯餘りに好奇心が強い爲めに時には無作法とまで見える事がある位だつた。彼の好奇心と聽きたがりの性質は人に對する毎に直ぐに呼び起された――萬人が平等に創られたなんぞと言ふ都合のよい話が流行つて居る此の世界で彼自身より不遇な境遇に生れた人に逢ふ時、彼の此の好奇心と聽きたがりの心とは一層強く刺激せられるのであつた。實の所彼は世に謂ふ人道主義者であつたのだ。謂所人道主義者といふ者は大して世の中の爲めにもならず、どつちかと言へば邪魔者位の者だが、マーチ自身は決して自分を世の中の邪魔者とは思つて居なかつたし、又自

分としては一廉社會の爲めに盡して居る積りであつた。

火と食事と明日の獵の豫期とそれに此の柔い聲の持主なる若い娘とは、つひ今しがたまで霜に凍えて居たマーチの魂を元氣附けた、そして彼はラムプの光の下で陽氣に話し出した。

「獵場の景氣は如何です?」忙しくナイフと肉差を使ひながら愉快げに問ひかけた。

「かなり盛ですの」

「明日の獲物はどうでせう?」

娘は眞面目な顏で「さあ、少し危いやうな氣がしますね、駒鳥日和で何にも獲れないでせうか。」と答へた。

マーチは今まで駒鳥日和なんぞといふ言葉を聞いた事がなかつた。聞いた事がなかつた丈けになほの事、それは眞を穿つたものとして耳に響いた、彼は其の後も度々此の言葉を思ひ出したのであつた。ほつそりした身體に色の褪せた辨慶縞の着物と同じ柄合のエプロンを掛けて。日に燒けては居ても格好のよい中指を一寸テーブルクロースの端につけた儘、ラムプの下に立つた彼女の唇から洩れた此の言葉には何ともたとへやうの無い雅致と古めかしさを湛へて居た。

マーチは愉快さうにほゝゑみかけて彼女を見上げた。「あなたはヘロルド君の娘さんなんでせう?」

「はい。」

「南部の御生れですか?」

「いゝえ。」と答は簡單だつた。マーチは此の時先にシセロ、ギルキンスが今は絕て仕舞つた此の倶樂部の會長であつた時に、フォーム島狩獵倶樂部の會館主事兼獵鳥保護人として北部生れの人を就職させた事を思出した。

其のロルドをマーチは未だ一度も見た事すら無かつた。然し何にしても島に人が入用であつたのと、彼が自分で其の人を探すのが面倒だつたのとで、自分一人の所有になつてからも矢張引續いて其の人に

毎年毎年約束通りの給料を拂つて居た、フォーム島の狩獵地を賣つてすつかり關係を斷つて仕舞はうと始終思ひながらも、依然として此の事を續けて居たのであつた。

「僕が此の前此處へ來てからもう五年になりますからね。未だギルキンス判事やパイス大佐が季節毎に盛に獵ちに來た時分の事ですよ。あなたはあの人達を覺えちやゐらつしやらないでせうね。」

「覺えて居りますわ。」

「ほんとに覺えておいでゞすか？　未だ子供だつたでせうにね。」

「十三でした。」

「それぢや今十八ですね。」マーチは面白さうに言つた。

彼女の引締つた若々しい口元はほんのかすかに彼の笑に答へた丈けであつた。

「こんなに長く此處に住んでおいでゞ淋しいとお思ひになる事がありますか？」

「えゝ、時々。」

「運動にはどんな事を御やりです？」

「運動つてどういふ意味ですの」

「然うですね、つまり氣晴しですかね。氣晴しにはどんな事をなさるんです？」

彼女は灰色の澄んだ眼でマーチを見た、それから其の眼を窓の方に外らした。然し窓からは何にも外の物は見えなかつた。硝子は唯彼女の顔を暗く映した丈けであつた。其の瞬間彼女は此のバージニアの沼地に暮す自分の閉ぢ込められた生活は丁度此の硝子の通りだといふやうに考へた——遣場も無ければ的途も無い感情を懷いて、絕えずあきたりない思を持ちながら、何方を向いて見ても自分に向き合ふ者は鈍い暗黑の中から拔け出して來たやうな我と我が囚はれの姿のみであつた。

マーチは彼女を眺めながら言つた。「時にはノルフオーク位迄は遊びに出なさるでせう？」

「いゝえ。」

「ぢやオールドボイントや、バルチモーアには？」下唇をチッと噛み締めて窓を見詰めた儘で居たので、マーチは自分の言葉は聞えなかつたのだらうと思つた。

彼は食卓から立上つた、彼女の眼が自分の方に向けられたので、愛想よく夕飼のもてなしを感謝した後で「それぢや御面倒でも一寸の間お父さんに逢つて色々お尋ねもしたいと思ひますから――」

「父は病氣で臥つて居りますの。」と言つた聲は聞き取れぬ位に低かつた。

「ヤツ、そりやいけませんね。どんな御工合です？大變お惡いんぢやないでせうな。」

「エヽ、まあそれ程でもあるまいと思つて居りますが……」

「明日は御逢ひ出來るでせうか？」

「それが一寸難かしう御座いますんですが……。父はあのう父は私に何でもあなたとの御話をするやうにと任せましたんですが…… 私はすつかり事務の方は承知して居ります。」此處で少し口早になつた。「私が帳簿を記入けて居りますし、重要事項は殘らず。控へて御座いますから何時でも御眼に掛けます。財産の方の事から、材木の伐り出し、それに修繕の方の事も何も彼も承知いたして居りますから、あなたの御都合の御宜しい時に客間の方へ參ります。ジムも私もお夕飯は濟んで居りますから。」

「ぢや御都合が善かつたら、今にしませうかね。」とマーチはほゝゑみながら言つた。

彼女は一寸其處を去つてエプロンを外して手を洗つて來た。そして直ぐ客間へ入つて來た。マーチは座を立つて彼女の爲めに椅子を出した、彼女の顔にほんのりと紅味が差した、彼女が會釋して其の椅子に着いた時、マーチも自分の座に返つて、彼女が書類を分けて居るのを眺めた。

彼女は膝の上から一束ねの書附をマーチに渡してから鉛筆を持つて、自分の方の計算とマーチの讀むのとを合せて行つた。

三十分の間二人は斯うして計算をした彼女の記入は凡て正確であつた。

「父は雌鵞鳥を三羽と雄を一羽アイク、ヘルムから買ひました。かなり値段が張りましたけれど、二つは合ひまして。別々に縛つて置きますと、それはよく呼びますの。ですけれど、高過ぎましたでせうか」受領證を出しながら怖々マーチを見た。

　マーチは笑つて、「高かありません。これが普通でせう。對の媒鳥は是非共無けりやならない物なんだけれども能く必要の時に聲を出すのに打當る迄にや一ダース位失敗つたつて仕様がありやしませんよ。」

「ほんとに然うで御座いますね。私共も媒鳥には隨分注意して居る積りで御座います。今居るのは皆話をいたします。雌鵞鳥の方もかなり揃つて居りますそれから鴨も大丈夫なんですけれど、白鳥がほんとに困りますの馬鹿でちつとも役に立ちません。まあ明日になつて御覧になつたら御分りになりますわと彼女は熱心に話した。

　二人が話して居る所へジムが開きかけた書物を持つて入つて來た。マーチはそれがラテン語の文法であつたのに、氣が附いた。

「ジム君、君は何處の學校へ行つて居るの?」

「父さんに教へて貰つて居ます。」

　マーチは自分の雇つて居る主事の學力に内心少からず驚かされて無言の裡に自分の前の二人を見た。娘は膝の上の紙から眼を擧げなかつたが其の足が神經的に震へて居るので見ても何事かに焦れて居るのは分つた。多分それは事務の邪魔をされた爲めだらうとマーチは思つた。

「さあ其の次は何です?」

　彼女は媒鳥の數の控へてある紙をマーチに渡したマーチはそれを取つて一々調べた。何も不審の點は無かつた。

「どうぞ明日御自分で數を御覧下さいまし。」

「いやそんな必要は無いでせう。僕はあなた方を絶對に信用してますから。」と言つてマーチは笑つた。

引續いて彼は殘つた事務に眼を通した。松林の現在の有樣からボートや其他の器具類の修繕費やらセメントだとか針金だとかいふやうな物の買入に至る迄かなりに細々した項目があつたが、そんな事は一つとしてマーチの興味を惹かなかつた。それよりも煙つぽいラムプの下でラテン文法を一心に讀んで居る男の子と、日燒けのした格好の良い手に鉛筆を持つて、屈み勝ちになつて膝の上の書類を調べて居る其の姉の方がずつとずつと深く彼の興味をそゝつたのであつた。

「僕は彈丸をニユーヨルクから別配達で送つて置いたけれど屆いたかしら？」

ジムが頭を擧げて言つた。「僕が二百丈けお部屋の方へ置いときました。」

「あゝそりや有難う。誰か明方に僕を起して呉れるんでせうね？」とこれは丁度其の時何か問ひたげに顏を擧げた姉の方に向つて言つた。

「貴女、未だ新しい規則を御存じ御座いませんの？」

「いや、知りませんよ。どつちにしても僕は規則つていふものは餘り好かないんですからね。」と言つて笑つた。

彼女もそれに應へて微笑を見せながら、書類を束ねて歸り仕度をした。「太陽が水平線に上る迄は岸から漕ぎ出す事は出來なくなりましたの。監視が隨分嚴しう御座いますの。」と言ひ差して椅子を離れた。

「では失禮いたします、未だ洗物が御座いますから。」

ジムは書物を側に置いて立上つたが姉はそれを抑止めた。

「可いのよ、構はないから勉强してゐらつしやい。私の方は手傳なしで充分なんだからね。」

ジムは赤くなつたが其儘又腰を下した。然し一分ばかり經つたら臺所の方へ出て行つて仕拂つた。

「姉さん、何だつてあんな事言つたの？皿洗ひなんかの手傳をするなんて女みたいだつて思はれるぢやないか。」

姉は氣の毒さうに詫びて居た。「オヤ〳〵それは惡かつたね。姉さんはそれには氣が附かなかつたのよ、だけども實の所があの人に何と思はれたにしても構やしないぢやないの。」

「僕は構ふんですよ。何しろ男の癖に皿を洗ふなんて事が人に知られたら外聞に係りますよ。」

「ほんとに惡かつたわね。勘忍して戴頂。ちつとも氣が附かなかつたんだからね。」

「全くですよ。折角僕の鴨獵の事まで話したのにほんとにつまらないや。」

彼女はジムの首の周圍を捕へて彼の金髮にキッスをした。「ジム、ほんとに氣の毒な事をしたね。でももう忘れてゐらつしやるよ。たとへば憶えてゐらつしやるにしても、姉さんに親切にする弟としてジムを却て尊敬なさるだらうよ。それからね、もう一つお前に言つて置く事があるの。あの方と餘り話をしないやうにおしなさいよ。お前の淋しいのもよく承知して居るけれど、あのマーチさんに餘り話をしないやうに願ひますよ。お前の淋しいのもよく姉さんは知つて居る。マーチさんのやうな青年の方と御一緒だつたらさぞ色々話し度いだらうけれど、お父様の命令で先方の話も聞けば此方の話も聞くといふやうになると不都合だからと仰るのよ。」

「何故父さんはそんな事おつしやるだらう？」

皿洗ひをして居た姉は肩越しにジムを見て嚴しく言つた。

「何故なんだらうな？」

皿洗ひをして居た姉は肩越しにジムを見て嚴かに言つた。「それは父さんの事で私共の關係しない事でせう。」

「だけど姉さん知らないの？」

「まあ、何て言ふ事をお言ひなの、お父さんがお話しなさり度けりや何時でもなさいますよ。それを聽き度がるなんてまるで禮儀を知らない事なのよ。」

「父さんはほんとに大病なの？」娘は赤い顔をした

「私にそんな事を聽くのは止してお呉れ。氣分が惡いから二三日部屋の中に入つて居るつて仰つたぢやないの？それで私共には充分です。」

ジムは考へ込んだ調子で「ハイ」と答へた。（つゞく）

海外時報

露西亞婦人避難所

ミズーリー洲カンサス市のミス、ルースの報によれば「或る人々は一日一食、其食さへも砂糖の入らぬお茶と、黒パンである。ある高等の敎育を受けた娘は一ケ月間自分と其兄弟と森にある苺を食べて過したと言ひ又此同じ娘が靴がない爲に先日町での會に來られなかつた。凡ての娘等は身體も心も勞れ果てゝ居る。赤裸足で薄い着物を着てる娘等の中には高い敎養のある人々がある。」と言つて居る。

ロシアに幹事として行つてる人々は困難な生活をして居るがしかし其困難がかへつて幹事達を善い人として前にすることの出來なかつた理解が出來るやうになつたと言ふことである。

ワシントンに開設された婦人宿屋

十月十九日ワシントンに最初の婦人ホテルが出來た。グレースドッヂホテルと言つて模範的な宿屋で白い石とクリーム色の煉瓦の七階造りで約四百ほど部屋の數がある。これは米國基督敎女子靑年會の事業の一つで同館の中央委員長は日本に十一月中旬來訪されたラックフエラー夫人である。室内の裝飾は善美をつくしたもので此宿屋の働人は一切婦人で其中の多くは大學卒業生である。特に家事經濟科卒業生の研究所として此宿屋が用ひられんことを期待して居る子供を伴れた母外國からの訪問婦人などの宿泊所として最も良い所である。職業婦人實務婦人其他のワシントンに於ける婦人達にとつても此女子靑年會のなした貢献は大なるものである。

オーストララシア

シドニー、ケント街のブリユートライアングルクラブ。昨年十月同盟本部工業部幹事によりケント街に卅三名の會費を納める會員を有する工業部が開か

れて以來其數も活動も大に增進して今や八十餘名の維持會員を得一つのクラブから四つのクラブが生じた。

コカブユラ、クラブでは裁縫、文藝、唱歌、體操夏は特に水泳術などを教授する。毎日曜午後夕陽會でミスサウンデーが話をされる。

シグネット、クラブでは女工達火曜日に集り、夕餐を共にし、體操、社交の教育を受ける。

ブリユーバード　クラブでは、少女の組で其名のやうに一番快活な一團で他人に奉仕する會の精神を客人接待ぶりに現して居る目下體操の組が其主なるものである。

ブリユーレン　クラブ工場に働く人々のクラブで體操の組、新しい節儉法其他のことがあつて特に最近本箱を購ひ圖書室を開いたが本が少ないので新古にかゝわらず書籍寄送を願つてゐる。

誌友の欄

投稿歡迎　締切毎月十五日

○　ウヰルミナ女學校　古賀よし子

御久しう存じます。御變りは御座いませんか、私共は卒業記念のため四國へ參つて居ます。只今栗林公園を見て歸つて來たところで御座います。同じ樹でありながら野性のものと、公園にあるのとの差異に驚きました。そして一つ感心いたしました事は、此公園には少しも塵がないことです。私は今までにこんなところは見たことが御座いません。こちらは通水の祝で大層にぎやかで御座います。（一一、四）

○　甲府　有泉はる子

十月三十日、私はいよ〳〵敎に入る事が出來ました事は此上もない感謝であり喜びで御座います。其日は凡ての物が私に對して祝福してくれる樣に感じました小鳥の音も讃美歌も祝福の聲と聞えました。食堂で皆樣からお目出度御座いますといはれますごとに、何とも云はれぬ感謝に充ち同時にそれにお報ひする者にならなければならぬとの感が强く心に起つて參りました。

校長先生からどうして今日は貴方はお嬉しいのですかと聞かれ、精神上の誕生日ですからとお答へしますと、左樣ですね、こんな美しい日に誕生なさる事をお祝ひ致します。又今度は皆さん方は學校の爲にもつと〳〵こういふ人を出す樣に祈つて下さい、私も貴女方の爲にいつも祈りますとの有難いお言葉をいたゞきました。そして今の内に澤山聖書の句を暗誦して置けばお婆さんになつて目がきかない樣になつても、聖句を思ひ出すと凡ての事をする時の助けになりますから何卒毎日よい句を一つづゝおぼえて下さい。猶常に祈り

神の御旨を伺つて事をなし信仰を行ひに現すやうにとお敎へ下さいまして受洗者の爲にお祈り下さいました。中略

いよ／＼救はれる時が近づき、やがて恵の座に參りました。其時の私の感じは、自分の深い罪人であることまるで罪人が判事の前に出た時のやうに思はれました。しかしキリスト様の血しほで、凡ての罪はぬぐはれ洗はれ生れかはるのだと思ひますと、只感謝の思ひで充たされました。其時キリストがヨルダン川でバプテスマのヨハネから洗禮を受け給ふた時の御様子をそゞろに思ひ浮べました。あんなに淸い神の子も人の子から洗禮を受け給ふたのだまして私の様な罪にそんだ者はキリスト様に頼らないでよいでせうかと思ひますと一種の靈感に打たれました、それから水のバプテスマを受けました其時、コルネリオがペテロから洗禮を受けた時に聖靈の賜を頂きました様に私は今は水のバプテスマを受けてゐるが確に神はキリスト様を通じて私の上に聖靈のバプテスマをほどこして下さつてゐると思ひました時に言ひ知れぬ感謝に充ました。

○　　廣島　金井時

既成宗敎に對して一般に反抗的氣分に滿ちてゐるらしい時代思想の感化が私に根深くしみ込んでゐますから、中々にすなほな心持で信仰の事など口にする事が出來なくなつてしまひました。けれども只祈禱に對する眞純な心持、優越せる何ものかに對する不可思議な信頼、そんなものは眞面目につゝしみ深く私の內的生活に新しい光明を與へてゐる事丈は僞りのない事實で御座います。私の若い日はすべて空想ばかりの日でした。僞りだともいへない。さういふにはあまりに私の空想は眞劍でした。けれどもそれは人生の實質にも眞の價値にも觸れてゐなかつたのは確かです。過去の私の努力も克巳もすべて、人生の價値に對する自覺ある奉仕ではなくてたゞ私の空想を培ふが爲の仕事に過ぎませんでした。それは或意味での虛榮ともいはれます。そうした誤つた過去を持つ私に重ひ／＼苦惱の時や怖ろしい、打擊などの周圍の人達にも想像もつかぬほど與へられてゐる事は當然い事であり、またそれは、一面私へのほんとうの惠みであるとも云はれます

すべてに感謝しつゝ生きてゆきたい。すべてを讃美しつゝ生きてゆき度い。事ある毎に深めらるゝ智慧をみがいて、いよ／＼人生の價値に對する信念をかたくしたい。それが私の念願の凡てゞす。

○　　米國　中西司娜子

私は感謝に滿ちた生活をしてをります。體の健康をいつも大自慢してをりました所二週間程前に、胃を害しまして十二、三日床に居りましたもうよう御座います。

二十何年東京の隅にのみ居りました私がニューヨークやシカゴ、ノースウエスターンユニバーシティーなどへ出てまゐりますと本當に鳥が籠から出た様で、生れて始めて大空のある事を知つたといふ様な氣分です。又すぐ小さい籠へ歸らなければならないので毎日深呼吸をして大氣を吸つて居ります。

然し元の古巣へとんで歸る時には飛び出した時とは異つた者となつてお目にかゝります。日本の女子靑年會の美しい發展を、祈ります。

修養會に出席せし神戸代表者一同

河井先生、先日は私共の方の靑年會においで下さいまして長い間お泊り下されほんとうに難有う存じました。先生からの數々の御訓によりまして、私共の心はほんとうに洗ひ淸められたやうな心地が致しました。どうかこの精神を保ちつゝ靑年會のために益々盡力致したく存じて居ります。

先生の御滯在中私共の一番嬉しうございました事は日曜のお餐を修養會に行つた者ばかり頂いた時でございました、私共はもう一度あのなつかしい御殿場に行つて皆と共に樂しく食事を頂きました其時の氣持をもう一度持つ事が出來ました、今年の夏あの山の上で頂きました大なる惠みを深く／＼感謝せずには居られません、先生喜んで下さいませ夏休み後修養會から歸つて參りました者共が一度も集つた事はございませんでした、然し各自が一週間の交りによりまして眞の友情を得て歸つて居りますので、御殿場に參ります、前にはあまり言葉を交したことのなかつた方々も今はほんとうの姉妹の様な心持で御交りいたすやうになつた事でございます。

只今私共の心は眞の社會奉仕といふ事で滿ちみちて居ります。私共の働は未だ神を知らぬ若い私共のお友達を一人でも多く青年會に導き少しでも多く神樣のお言葉をお聞かせするやうに努めて居ります。

先日夜學の時に伺ひましたお話の通りに聖書を誦ずるといふことは大變によい事だと存じまして毎日短い句から一句づゝ誦んずる樣に決心いたしました。

毎日一句づゝ増してゆくのをたのしみに致して居ります、何卒先生の御指導によりまして私共の一團がいつまでも奉仕の精神を持續けて行く事が出來ます樣、益々青年會のためにお手傳する事が出來ますやうに祈るものでございます。

宮城女學校　仙臺　土井照子

此頃學校では色々の催しの爲に皆の心が浮いてゐる時、新禱週の與へられましたことは本當に感謝すべきでございます、今朝の禮拜には校長先生が特に青年會のためにお話しをなすつて下さいました、本當に嬉しく、原田先生始め二三の方の熱心なお祈りがございまして、この新らしい心を與へられました、毎日お晝に開かれるお集りにも澤山の先生方やお友達がいらして下さいます、この新らしい心でクリマスの爲に働く事が本當に樂しみでございます。

修養會の時はじめて知りあつた澤山のお友達からは始終御親切なお手紙を戴いて本當にうれしうございます、クラスの人達にも「本當に貴女は修養會にいつてからなほ更ニコ〳〵してるのね、私もゆけたらどんなにいゝでせう」一つていはれます、其度に早く修養會のために大きな建物と土地とが益々欲しくなります、本當に一日も早く神樣が下さいますやうお祈りして居ります、其爲に幾分でも働けますことがうれしくてたまりません。後略

○　横濱　國領歌子

今年の修養會は私の一生を通じてどれ程に有益な事であつたかわかりません、本當に皆樣のお蔭でございます、あの大自然に包まれて毎日先生方のお話を通しての神のお言葉はしみ〳〵私の心に還入つて居ります、時々考へては感謝にたへません、修養會以來母も教會にゆくことと聖書の組に出ることを許して下さいます、中略、今週の新禱週の第一日で青年會の靈交會に出席致しました、この新禱週のことについてミス、ヴエーリーから大層よいお話がございました、昨年の新禱週の私共の心が再び新しくせられたやうな心持がいたします。でより一層眞劍になつて萬國のために世界のために祈らうといふ氣分で過したいと存じます、後略

東京女子青年會報告

○家庭部

(一)講演會「婦人の心得べき法律につき」　平山六之助氏

(二)日本料理實習會　一戸姉、出席者三十名

(三)家庭親睦會、ハロウインの裝飾、パンプキンパイの夕食、餘興として「屋上の狂人」の喜劇及音樂等にて盛會。出席者百七十名。

○體育クラブ主催ハロウヰンパーテイー。ゴーストのお話及種々のきみのわるいゲームありて一同大滿足にて九時散會出席者百五十名、當夜裝飾の一として室の中央に大きなパンプキンの顏したる提燈がさげられたるは一層皆の興をひきたり。

○一般講演會　日本人は概して十中の八九まで完全なる足を有しおるに、反し米國人は十中の八九迄、不完全である、しかるに今日本にて盛に皆が靴を用ゐるが此際如何なる靴を用ゐるべきかにつき過日ミスローエンは製形學の講演をされたり出席者百餘名

○募金週プログラム

九日水曜日　體操競技會午後七時より

出席者百三十名
十日木曜日　西洋料理實習會午後三時出席者
三十名
十一日金曜日　バジエント　午後七時出席者
百八十名
十二日土曜日　バジエント　午後二時半出席者
三百七十名
同　講演會「西洋作法に就きて」午後七時半より出席者五十名
十三日日曜日　讃美禮拜「平和は來る」午後二時半より内村鑑三先生出席者三百名
十四日日曜日　洋裁編物陳列會及野菜料理試食會一時半より出席者五十名
十五日火曜日　體操競技會午後七時より出席者
二百五十名

九日より活動を開始せし募金週中當會館にて催せし左の諸集會はいづれも盛會にて十五日を以て閉止せり此報告を記して後募金の二萬圓は超過して入來れり。

横濱女子青年會

一、教育部、十一月十二日午後二時より第一回本會教育部教師會を閉催す、事業報告後種々の問題につき協議するところありて當部の發展を計る、會後一同親睦す、出席者小數なりしも教育部のため一同有力なる且つ必要なる會合なるを認めて散會す。

二、クラブ。(イ)夫人クラブ、十一月九日例會を開き本會會長室原夫人の『理想的家庭』につき實際的にして且つ面白きお話あり午後一同西洋の下着につき研究す。

(ロ)有職婦人クラブ、十一月十一日例會を開き野村洋三氏の「有職婦人に對する期待」につき力あるお話あり、後ミス、マクナメラの英詩暗誦及びピアノにより一同樂園に遊びし心地して散會す。

(ハ)ルイズクラブ、十一月十二日例會に於て新役員の選擧あり一同希望に滿たされて散會

(ニ)三週間前より當市フエリス女學校生徒より成るフオヒーロークラブ (Wo-wah, he-health, lo-love)生る、

(ホ)支那婦人クラブ、毎週ごとに盛大になりつゝあり。

○職員會　數週前より職員會に於て二つの新らしき會を始む、一はダクタードレパーより隔週に聖書の講議を受けつゝあること、二には市の宗教、教育、移民、工場、社會問題、寄宿舍の調査を職員分擔し隔週に報告をなすこと、以上の二者我等一同の精神上知識上に大なる向上を與へつゝあり。

神戸女子青年會報告

十一月の女子青年界の會説にて本會職員一同は實に勵まされました。私共が忙しくどうしてこれ丈の仕事を一日の中に仕上る事が出來ますかと思ふ樣な時に本當に神が働き給ふ事を實際に經驗しつゝあります。

來るべき祈禱週には宗教部委員の奔走に依り本會内にて祈禱會を催すは勿論、須磨、本會附近、熊内、原田村及び御影の各方面にて寄々に祈禱會を開きます、大傳道集會も計畫しましたが場所の都合で開く事が不可能になりました、かゝる時に於てもつく〴〵會館の必要を感じます。

十月廿日には熊内方面會員によつて組織されて居ります、熊内クラブの主催にて衞生講演、活動寫眞會を開きました、木村社會課長、前田長田療養所長三浦醫師のお講話があり、衞生並に育兒に關する活動寫眞がありました、來會者は大人小人にて五百名野崎小學校講堂は是等の人で滿されました。

クラブ指導者養成課は晝間と夜の二回開き三十餘名の未來の指導者が熱心に且愉快にミス、アームストロングの指導を受けて居られます。

絞染講習會は本會同情者宮田夫人の御好意に依り五日間本會にて開き十名の姉妹が講習を受けて居られます。

有職婦人の爲の木犀、プリンセスクラブは役員の改選をなし新らしき力を以て發展せんと努力して居ります。

米國本部總幹事ミスクラテイ並に日本本部スコット幹事當地御視察中にて一同それらの方々を御迎へする事の出來ました事を名譽になして居ります。

大阪女子青年會報告

○教育部。晝學夜學とも前月と大差なし。生徒總數百十人(十月號に百七十人とありしは誤)社會學コーラスは無月謝にて有志者の來會を歡迎す。興味と熱心とより來集せらる

ゝ人々により兩者とも氣持よき組として生長しつゝあり。十一月廿三日同部主催の下に神戸女子青年會と聯合して六甲山中腹の甲陽園に遠足す。十二月中旬オルガン購入の爲第一回レコード音樂會を催す計畫、十一月の教育部委員會にて決議せられます。

○宗教部。善積君惠氏を委員長として將來の發展を企圖しつゝあり。十一月十九日には祈禱週の特別集會を會館にて催し「聖仙の下にある男女」の題にて西野貞子女史のお話ある筈なり聖書の組は目下武本先生の組一組にて金曜は夜學前三十分開かる。出席者平均二十名。羅馬書を研究中なり。

○擴張部。牧ちか子氏同部委員長なり。十一月十五日委員會を開きミセスウッドの御出席を得て同部の働の方針に就き種々具體的の御注文を受けたり。委員は今後新聞雜誌中に記載せらるゝ大阪はもとより日本各地の產工業に關する記事は之を切り拔き將來の働の材料を蒐集せんと計畫せり。日本に於る商工業の中心なる當地に此方面の働の道の開かれんとしつゝある事、それが爲ミセスウッドの來阪を得し事又同氏の協力者として有要なる委員を與へられし事は感謝に不堪。

○クラブ。ミスアームストロング一週二回來防せられ一回は指導者の組の爲他の一回は實地にクラブを組織する爲盡力せらる。指導者の組には十一名出席す。梅田高等女學校の生徒及貯金局の人々は每週土曜日午後來館。近き將來に於て之等の人々の間にクラブ組織せらるゝに至るべし。

○雜報。(イ)ミスレーガンは每週一回奈良女子高等師範生徒有志者の爲聖書の講義に出張せらる。(ロ)一年餘事務幹事として忠實に本會の爲盡されたる佐藤いよ子姉は一身上の都合により辭職せられたり。

京都女子青年會報告

□此月から同志社女學校の有志の方々のため基督教研究組を今一つ增加する事となり同胞教會の安田牧師が組を教導して下さつて居ります。

□ミスアムストロングは此月神戸大阪當地でクラブ指導者養成組を開くため東京より來られ當地では同志社女學校と當會館と二ッに分れて週に一回づゝクラブについて興味ある講演を伺つて居ります、出席者は各々十五六人でございます。

十一月十一日會議の初日とて當會にても日高牧師

から同會議について有益な御話がありました、出席者四十八名十九日にはバザーを開く事とて目下多數を極めて居ります次號には其結果の報告が出來ましやう。

神戸女學院青年會報告

自然界は何處も美しい衣を裝ひ神と人との見えざる日頃の働きはこゝに現はれて到る處に收獲の喜ばしい叫び聲を耳にする頃となりました、我が學園に植えられた種も日毎に成長し或は大きく或は小さく色々に花を咲かし又は實を結んでゐます、神の畑は絶えず働人の手を待ち受けてゐます、修養會で得た聖い印象と強い信仰の力とは常に私共を動かして居ります、特に未だその熱の冷えぬ時、丁度然も修養會の報告をチャペルで大得意に又面白く話した翌日に河井先生と忙しい日の午前を二時間許り親しく役員會をなし、思ひがけもなく多くの材料を得信仰を强められ、今までの勇氣を又鼓舞され一同感謝と活動に對する大決心をもつて散會しました、これも今學期に我等を導く大刺激物の一つです、

先づ私共の青年會は約二百名で成り立ちこれを六部に分ち、各部に各々部長を置き其任に當つてゐます、六部とは宗敎部、傳導部、社交部、財政部、音樂部、會員誘導部です、宗敎部の集會は隔週の日曜と火曜とに開いてゐます。この生れ出た團體にバイブルクラスがあり三十四五名の會員を有し毎週水曜日の放課後開かれます。米國敎師の指導の元に多大の進歩をしてゐます、これは主に大學部生の爲の聖書研究會で殊に聖書中の婦人に關する問題を選んで現代婦人の手本として參考としてゐます、この會では決して日本語を用ひませぬから一つは英語のよいプラクチスにもなります。各集會はポスターによつて示されます、近く小さい人々の爲に日本語のバイブルクラスも作ります、この會では時々ピクニックや親睦會等を致し大いに社交の方面にも力をそゝいでゐます。

近く青年會デーを定めて毎週金曜日放課後に財政部の人々が又は寄宿舍で夕食後電燈の元に圓く集つて作つた編物しほり繪本キャレンダーを賣るつもりです、又明年の二月で青年會創立以來滿十年なので記念の爲に青年會雜誌を作り廣く會の有様を示す積りです。

梅光女學女子靑年會報告

相變らず仕事會と祈禱會とを各週にいたし時に最近(十一月二十三日)に開かれるバザーの爲に忙しく働いて居ります、毎日出來る限り委員を初めとして三十八づゝ五時近くまでミシンと仲良くいたしております。

忙しい其の中にも讃美歌を歌ひながら樂しく盡くしておりまするをおよろこび下さいませ、修養會で御報告致しました樣にパンの利が益々加へられバザーの爲にも百二十圓出すことが出來ました現在も引きつゞいてパン店に委員一人は働いて居ります、聖書研究は別に明してありませんが一體に學院の中堅として靑年會が立つておりまするをおよろこび下さいませ。

何しろバザー前の事で一生懸命に働いておりまするより外に大した變りは御座居ません、通信委員が永い間の御病氣の爲にとりあへず代りまして御報告まで。

中歐學生救濟御寄附金(第六回報告)

金五拾圓也	府立第一高等女學校	(東　京)
金拾五圓也	延岡高等女學校	(宮崎縣)
金五圓也	第二山下實科高等女學校	(愛媛縣)
金拾五圓也	神奈川縣女子師範學校 神奈川縣立高等女學校	(神奈川縣)
金壹圓也	酒田高等女學校	(山形縣)
金五圓也	新潟高等女學校	(新潟縣)
金拾九圓六拾五錢也	弘前高等女學校	(青森縣)
金參圓也	隱岐實科高女窈窕會	(島根縣)
金百六拾參圓參拾壹錢也	樟蔭高等女學校	(大　阪)
金拾圓也	新庄實科高等女學校	(廣島縣)
金五圓也	無名氏	
金拾圓七錢也	三好高等女學校	(德島縣)
金四拾九圓七拾錢也	女子商業學校	(東　京)
金七圓五拾四錢也	大分女子師範學校	(大分縣)

計金參百五拾九圓貳拾四錢也

累計參千七百九拾貳圓貳拾四也

(以上大正拾年十一月十日第二回締切迄)

本部會計報告

金貳拾五圓也	(御寄附)	ミス、タツピング
金壹圓也	(維持費九月分)	淺井治子氏
金五圓也	(同上)	松岡領枝氏

金八拾圓也　（河井總幹事に講演謝禮として御寄附）　神戸住吉各敎會
金拾圓也　（同上）　湊川敎會婦人會
金貳拾圓也　（同上）　上田梅花幼稚園內　上田女子靑年會
金拾圓也　（同上）　長野旭幼稚園內　ミス、スコット
金五圓也　（御寄附）　ミス、ホルド
金七拾圓也　（同上）　田中正子氏
金貳千圓也　（故山本多穗子夫人記念として御寄附）　男爵　山本達雄氏
金貳拾五圓也　（維持費十月分）　河井道子氏
金貳拾五圓也　（本部負擔金）　東京女子靑年會
金拾圓也　（同上）　横濱女子靑年會
金五圓也　（河井總幹事講演謝禮として御寄附）　本鄕敎會婦人會
金拾圓也　（御寄附）　ミス、ペーヂ
金貳拾五圓也　（同上）　ミス、アレン
金參圓也　（維持費、九、十、十一月分）　村津とく子氏
金拾貳圓也　（維持費、一口）　渡邊安子氏
金拾貳圓也　（同上）　遠藤八重子氏
金五圓也　（御寄附）　ミス、クローマー
金貳圓也　（維持費、十、十一月分）　三輪田眞子氏
金貳圓也　（幹事養成所のため）　無　名　氏
金六圓也　（維持費第三、四回分）　永島博子氏
金貳百圓也　（御寄附）　星　一氏
金五圓也　（維持費十一月分）　松岡鎭枝氏
金壹圓也　（同上）　加藤高子氏
金拾圓也　（御寄附）　ミス、ラ、バートッン
金貳拾五圓也　（同上）　ミセス、ウッド
金五圓也　（河井總幹事講演謝禮として御寄附）　大久保同胞敎會婦人會
金參圓也　（御寄附）　長野旭幼稚園女子靑年會

萬國基督敎女子靑年會本部への負擔金

金五拾錢也、遠藤八重氏、金拾錢也內藤きぬえ氏、同上雪岡妙、同上勝部殺子氏、金拾貳錢也、金子清子氏金壹圓也、二宮っの子氏金拾錢也、無名氏金拾貳錢也、西川久惠氏

【消　息】

□ミス、クラテイー　米國總幹事なる同氏は十一月上旬支那より神戸に上陸其後東京に滯在、再び關西に赴き本月二十九日横濱出帆歸國の豫定

□ミス、スコット　同幹事はミスクラテイーに同伴して女子靑年會を紹介されたり。

□加藤勝彌氏　加藤高子氏の父君なる同氏は十一月五日新潟村上にて御永眠されたり。氏は基督者として代議士にも數回選擧せられ、傳道界にも貢獻されたる所多く又全家族キリスト信徒として人に知らるゝ所今回の御逝去に對し哀悼の意を表す。

□ミス、アームストロング女子靑年會のガールス部主任なる同氏は

二ヶ月間を關西に送り、所々に於てクラブ組織を紹介しつゝあり。

□ミセス、ウッド　勞働問題研究の爲關西に二ヶ月間を送り明年よりは大阪迄に女子青年會の工業部を開始の計畫中なり。

□佐藤伊興子氏　大阪青年會の幹事なる同氏は今度御結婚の爲辭職せられたり。

□ミス、パイダー　東京女子大學教授、本部中央委員の一人なりし同氏は御母君御危篤の爲十一月八日米國に歸らる

□廣島女學校　同校高等部學生十名修學旅行の爲上京數日間當地に滯在されたり。

□内村鑑三氏　『平和の來る日』といふ演題にて十三日東京女子青年會館にて講演されたり同日ミスクラデイーも『己が爲偉大なることを求むる勿れ』といふ題にて奬勵されたり。

□聖女學院　瀧ノ川の同校に於て歐洲戰爭休戰條約締結記念日十一月十一日に傳道集會を開き河井道子幹事を講師として招待したり

□ラッカフエラー夫人　本會の國際日に於て同婦人を主客とし十數名の婦人相集り其内數人短き話をなし晝食を共にし親睦をなせり。當日意見を述べたる者左の如し。ミス　マクドナル　監獄問題、ミスラッシュアワー　新聞に就て、ミセスガンダレット　藝者問題、吉岡彌生女醫學校、辻マツ子氏高等女子教育、河井道子氏女子青年會について以上。

□新歸朝者　福岡ヤス子、田村マス子兩女史は英學塾出身にして三ヶ年間米國にて特に服裝問題を研究され、吉田信子氏は横濱共立女學校の教員なりしが數ヶ年間米國にて音樂を研究され同女史の親友なるミス、ウエルスと共に十一月歸朝されたり。青山南町五丁目八十番地に四人にて一家を持たれたる由。

□市村與市氏　名古屋錦城女學校々長の同氏は昨今御渡米

□ミス　カンバス、横濱捜眞女學校々長なる氏の爲に同校に於て頌德式を行ふ同先生の日本女子教育の爲に三十二年間從事されしを感謝し慰勞金として六千圓及時計一個を同窓生及知人より進呈されたり、同校長は十月下旬一ヶ年間休養の爲歸國されたり。

□ミス、ルーミス　横濱共立女學校長にして又女子青年會創立以來熱心に後援さるゝ同氏は一ヶ年休養の爲十一月二十三日米國に歸らる。

□高倉壽子氏　英國に居らるゝ高倉德太郎氏の夫人は、御良人の郷里丹波に住居さることゝなりたり。

□二萬圓募金　東京女子青年會の資金募集は神の祝福と委員、會員達の熱誠とにより目的通り短時日に、二萬圓を得たり。

□ロックフエラー氏講演會、教會、平和協會、東京女子大、男子青年會女子青年會の五團體聯合の主催にて十一月十四日男子青年會館にて、招待會及講演會を催す。千葉勇五郎氏の通譯にて基督に根據を置けるあたゝかき友情關係を說かれたり。

新刊紹介

使徒行傳餘師

（山室軍平著）

廣く聖書の知識を普及せん爲、聖書の平民的講解をつくり、如何に忙しき人も若朝の十分を費せば毎日一通り精神的の養料を攝取し得べく更に五分間を祈禱に用ゆるものとすれば十五分間毎朝神と交ることにより、其日々の靈的戰鬪準備が出來るやうにしたいとの御希望から、前にマタイ傳餘師を著はされ、今回更に使徒行傳餘師を公にされました。四六菊判のハンデイーブクです。

（定價上製一圓二十錢 並製七十錢）

發行所東京神田區一橋通町五番地

救世軍出版及供給部

振替東京四四〇

編輯室より

□本號をクリスマス號として出し得ました事を感謝して居ます。皆樣が有意義なクリスマスをお迎へ遊すやう切望して居ます

□最近社會に殺人、自殺、離婚恐ろしい出來事が短日月の間に連發しましたことは私共に一層生活の第一義に立歸るべきことを示して居ます。

□女子青年界御講讀の皆樣へ

雜誌は只今迄實費以下で御分配申上て居ましたが、大正十一年一月より一ヶ年前金二圓一冊廿錢に定價を改正いたします。一冊は事實上毎月廿錢にお願ひ致して居つた次第です右御諒察下さいませ。

（K、O）

摘要

△本誌代金は總て前金にて御拂込被下度，前金切れの捺印有之候節は直に御拂込被下度候

△御送金は振替にて拂込まるゝ方便利にて且間違も無之候、但手數料壹錢を御加へ下され度候。

△振替、東京、貳參七貳參番

「女子青年界」定價及廣告料

定價郵税共

	內地	海外
一部	金十五錢	金拾七錢
一年前金	壹圓五十錢	金壹圓八拾錢

廣告料

一回掲載	
一行	金五拾錢
四分一頁	金五圓
半頁	九圓
全頁	金拾五圓

年極又は回數により割引有

大正十年十一月廿八日印刷納本
大正十年十二月一日發行

發行所　神田區錦町一丁目十六番地
日本基督教女子青年會
電話 神田三六五二番
振替東京二三七二三番

發行兼編輯人　河井道子
神田區錦町一丁目十六番地

印刷人　前川吉次郎
芝區愛宕町七番地

印刷所　三成舍
右同所

and an inspiring speaker at various meetings, and has now consented to be a member of the Board and Chairman of the Educational Committee. At the November meeting of the committee, plans were made for Christmas observance, also for a series of victrola concerts to raise money for an organ, much needed now because of several calls for organ lessons.

The Week of Prayer was observed with daily prayer services, and many posters in the hall told its significance to everyone who entered the building. A carefully-planned special meeting on Saturday afternoon marked the close of the Week, with music by girls under Miss Steinmetz' training and an address by Nishino San. Bible study is beginning again, all the nightschool girls coming under Mr. Takemoto's instruction every Friday night.

The Osaka Y. W. C. A. has referred to us a fine opportunity for Bible teaching at the Girls' Higher Normal School in Nara. A number of the Normal students had been attending the little Christian church there, which has to be closed for a time, and now they ask for further Christian teaching. Miss Ragan is beginning a Bible class there in Japanese on Wednesdays with a group of about 20 girls.

KYOTO

Forty-eight girls attended a meeting on Friday afternoon, November 11th, at the Association building, to hear Mr. Hidaka give an account of the Disarmament Conference in Washington. Mr. Hidaka is a keen student of affairs and has high spiritual ideals for his country, so those who came had a rare opportunity.

The clubs and classes, as well as the committee women of the Association are all working hard in preporation for the bazaar, which is to be held on the 19th of November. The clubs have been holding weekly meetings to sew and make things to be sold. One of the tables at the bazaar is to be a "White elephant" table, at which people will sell things that they have in their homes which might be useful to someone else.

Miss Clare Armstrong of the National Staff is visiting Kyoto for two days each week during the month and holding classes for club leaders. She has two classes—one with an enrollment of ten and one with an emrollment of fifteen. After Christmas we hope to have several new clubs started with these class members as leaders.

The fifth year high school girls in Doshisha are making a survey of the day pupils to find out how many are Christians, how many are interested in work for others, in the YWCA, etc, and to discover what they would like to have in the YWCA. This investigation is being carried on under the direction of Miss Best.

The secretaries of the Kyoto Association have rented a small three roomed cottage at Zeze on Lake Biwa for a rest house and a center for Association excursions and small conferences. The cottage is the only building on a small island, which is separated from the mainland by a river, and it is protected from the north wind by a grove of trees. It is only a short distance from the lake and the view of the water and the mountains across the lake are very beautiful. It is said to be an excellent place for swimming in the summer also. A hotel a short distance away will rent futon or provide food as we need them and the pastor of the United Brethren Church, Mr. Yabe, is a near neighbor and willing helper in arranging details for us.

KOBE

Many different classes in household crafts are meeting weekly at the Association,- cooking, sewing, knitting(taught by Miss Onomi), and last week there was a special daily class in tie dying, a unique Japanese art.

On October 22 there was a Moving Picture and lecture meeting at the Nozaki Higher Primary School, held under the auspices of the Association. The machine was borrowed from the Shihyakusho, films from the Kencho, and the speakers were the Head of the City Social Service Department, the physician in charge of the Tuberculosis Hospital, and a neighborhood phys cian. About 70 mothers attended, and several hundred children! Two hundred and fifty-six mothers sent in their names and addresses as desiring a call from Miss Yamamoto, the public health nurse, who is now doing the visiting thus called-for.

Kobe has had the honor of the presence, at one time, of the entire staff of the national travelling foreign secretaries, and also Miss Cratty Mrs. Wood has been continuing her industrial investigations, and at the November Board meeting gave an inspiring talk to the Board women. Miss Armstrong has commenced her classes for the training of club leaders,- one on Wednesday mornings for women of leisure, and one on Thursday evenings for business girls, teachers, and secretaries. Both are strong, enthusiastic, and well-attended.

Miss Cratty arrived in Kobe from Shanghai on Monday, November 7th, Miss Scott having arrived the previous day from Tokyo. Monday morning on the way to meet Miss Cratty, Miss Scott had a jinricksha accident, which, happily, proved to be without serious consequences. Monday afternoon the Board meeting took place, with Miss Crattyp resent. Miss Cratty gave the Board women a helpful message. On that same day Mr. Kagawa was a luncheon guest, and had a long talk with Miss Cratty about his recent work, which is everywhere meeting with wonderful success. Tuesday Mrs. Wood and Miss Cratty visited the Kanegafuchi Spinning Mills, and met Mr. Muto, the owner. Tuesday evening Mrs. Ariyoshi, the governor's wife, and several other Kobe ladies were entertained at a "buffet supper" in honor of Miss Cratty, who left for Tokyo with Miss Scott the next evening.

On November 11th, Armistice Day, a special Board prayer meeting was suggested by the President; and beginning on the 13th, daily prayer-meetings were held during the Week of Prayer at the Building, while on five days of the week, additional meetings were held in one district each day, according to the plan of the Neighborhood Clubs. One new Club, the Hirano Neighborhood Club, met for the first time on the 14th.

OSAKA

Miss Armstrong is giving valuable help on Friday and Saturday each week, preparing the Postal Savings Office Girls' Club for initiation and training a group of eight girls for future club leadership. We look for much added strength in the work this year through her help. The Industrial Committee is busy preparing to work with Mrs. Wood, who comes soon to Osaka.

We have long wished to have Mrs. Yamamoto on our Board of Directors-a graduate of Dr. White's Bible School in New York who has translated several books from English into Japanese, "Pollyanna", "One Girl's Influence," etc. She has been an active committee member

foreign sewing classes.

The Family Party this month took the form of a Hallow E'en evening, and was attended by 170 men and women. The Athletic Club entertained over 150 girls at Hallow E'en stunts the night of the 29th.

Among the lectures of the month were those by Miss Susan Roen on Correct Footwear and Posture, Miss Clara Loomis on Foreign Etiquette, and two lectures under the auspices of the Peace Society.

The Sunday meeting of the World's Week of Prayer was addressed by Miss Cratty of New York, and Mr. Kanzo Uchimura.

YOKOHAMA

Dr. Gideon F. Draper, of the Methodist Mission in Yokohama is giving a very inspiring series of talks to the Secretarial Staff on the subject- "The Consecrated Christian Worker".

One of the best Vesper Services which we have ever had was that one in which the delegates to the Summer Conference at Gotemba told of the influence which that meeting had had upon their lives. In the informal hour following the service, other girls told of the work which they had done during the vacation. One of them had been a teacher in a Daily Vacation Bible School, and another told of her summer's experiences in Formosa.

At the last meeting of the Business Girls' Club, Mr. Nomura talked to the members on "What an Employer expects of an Employee". The talk was given with the characteristic earnestness and humor, which makes Mr. Nomura one of our most valued friends. Following his talk, Miss MacNamura, who is one of the guests at the Residence gave some very delightful readings. The Club voted to make a division so that in the future girls who are under 18 years of age will have their own activities. They are to meet for supper and for the organization of their club on next Saturday night.

The Standard Oil Company has made a donation of a three burner Cooking Range which will make possible much larger development of our Cooking Classes. Mrs. Chamberlain's Class of housewives has grown until it almost overflows into the hallway, and there is great interest in the Class for Business girls which Sakamoto San from Tokyo is to start this coming Friday night.

The Singer Sewing Machine Company sent one of their workers to demonstrate the machine to the Class of women and girls who are studing foreign sewing. Especial attention to clothes for children is being given in this class, though one of the members is making underwear for herself as a part of her outfit for a trip to America.

The Annual Meeting of The Yokohama Association will be held on the evening of November 26th. Our guest of honor is to be Miss Cratty- and we are anticipating an evening of very real fellowship among the Association members. Supper is to be served at the Association building at 6 00 o'clock.

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN
(JOSHI SEINEN KAI)

Volume 18 | December 1920 | Number 12.

NATIONAL

Tokyo has been enjoying a visit from Miss Mabel Cratty, general secretary of the National Board in New York City. Miss Cratty has visited in Kobe and will later see the Association work in Kyoto and Osaka. She has been in Tokyo during the local campaign, and has spoken once at the Tokyo Association, at the opening meeting of "Week of Prayer." She will sail on the "Siberia Maru" November 23th for Honolulu, where she will stop for about a week. She expects to reach home about Christmas time.

Miss Kawai has made one trip of almost a month, visiting Associations and schools in the south. During the Tokyo campaign she has given most of her time to that work, since Miss Kato was called home on account of her father's death.

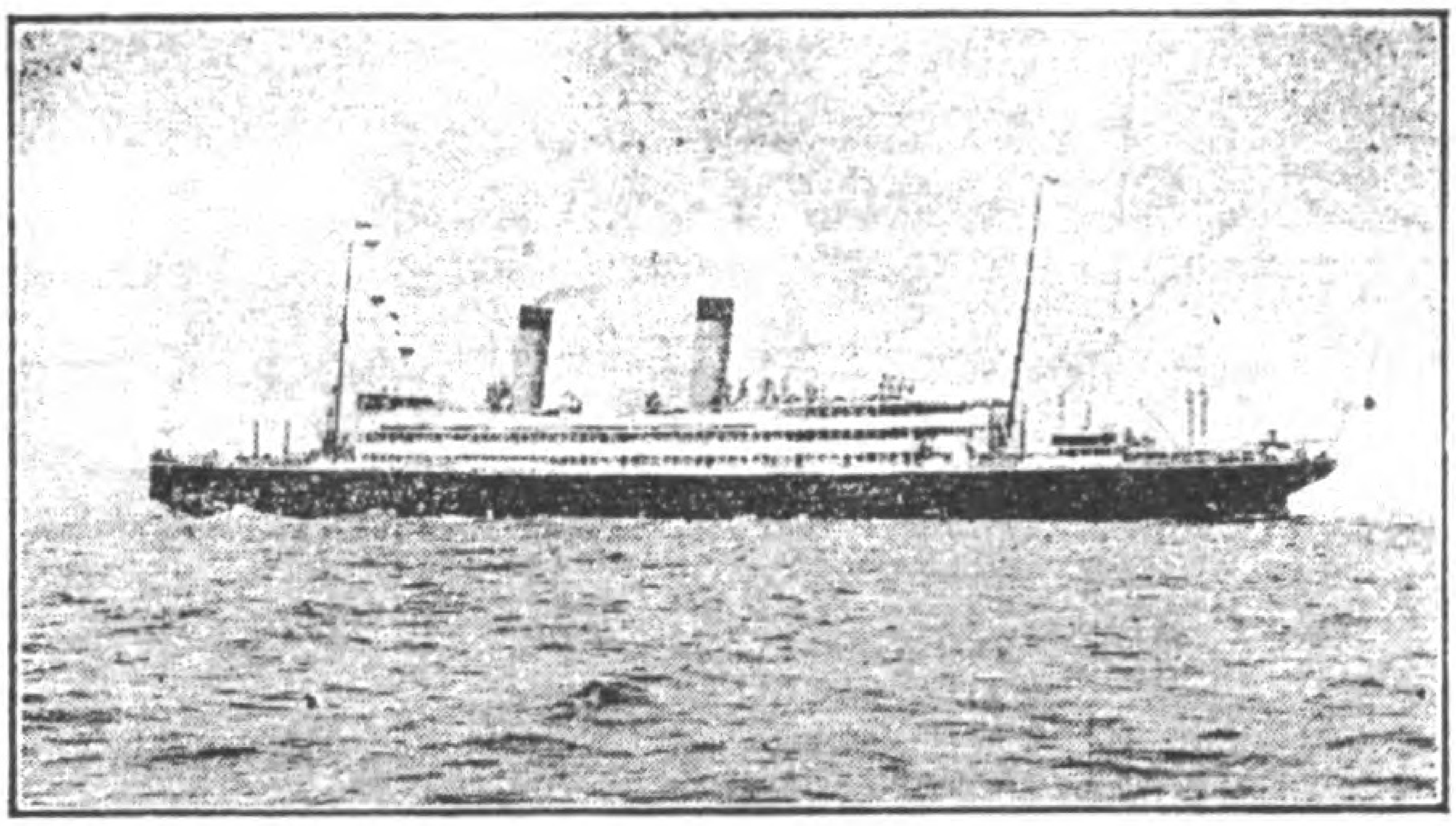
TOKYO

The month of October was largely filled with activities preparatory to the Finance Campaign for Yen 20,000.00 which took place during the week from November 9th to 15th. A Membership Tea for those members not frequenting the Association building was first given, at which Miss Michi Kawai spoke of the recent developments and some of the plans for the future of the Association. This was followed by suppers to various groups, such as the Christian ministers and laymen of different churches, all of whom expressed the greatest interest in our work, and assured us of definite support. The members of the Board and of the committees, with others who had joined the six teams for campaign work met the morning of the ninth in the Association at 14 Kita Jimbo-cho, for a short service of prayer in which they were lead by Miss Kawai, after which they scattered to all parts of the city for the solicitation of gifts. A further report of the Campaign will follow next month.

During the week of the campaign two gymasium exhibitions were given, which were attenedd by nearly three hundred people. Among them were groups of girls from the Fuji Spinning factory at Onakigawa, who afterwards joined in the games, and expressed great appreciation of their first visit to the Association. A pageant written by Miss Carolyn Allen of Yokohama showing different phases of Association work, and the many girls who might be reached if financial support could be assured was given twice during the same week, and was largely attended.

The Household Economics Department arranged this month for a lecture by Mr. Rokunosuke Hirayama on Japanese laws regarding women, and held an exhibition of sewing and knitting done by the

東洋汽船株式會社



本社 東京市麹町區永樂町一丁目一番地（電話丸ノ内一五三〇、一五三一、一五三二、一五三三番）

營業所 横濱市山下町五番（電話本局四四〇〇、四四〇一、四四〇二、四四〇三、四四〇四番）

出張所（神戸市京町八三番。香港、キングス、ビルヂング。上海四川路ノース、チャイナ、インシュランス、ビルヂング。マニラ、チャコビルヂング。桑港、マーケット街六二五、マーチャンツ、ナショナル、バンク、ビルヂング。紐育、ブロードウェイ、一六五。ホノルヽ、アレキサンダー、ヤング、ビルヂング。）

北米航路（桑港、布哇ホノルヽ、横濱、神戸、長崎、上海、マニラ、及香港間）

本航路は太平洋航路中氣候温和、海上平穏なること第一にして船舶の巨大、設備の完全、待遇の懇切とに由り航海最も安全且つ愉快なり

天洋丸	三重螺旋タービン機	排水量	二二、〇〇〇噸
春洋丸	同	同	二二、〇〇〇噸
コレヤ丸	双螺旋機	同	二〇、〇〇〇噸
サイベリヤ丸	同	同	二〇、〇〇〇噸
波斯丸		同	九、〇〇〇噸

南米航路（香港、門司、神戸、横濱、布哇、桑港、羅府、墨國、巴奈馬、秘露及智利諸港間）

本航路は東洋南米間唯一の定期航路なり

安洋丸	排水量	一八、七〇〇噸
紀洋丸	同	一七、二〇〇噸
静洋丸	同	一四、〇〇〇噸

各寄港地及各國樞要都市に代理店の設置あれば船客保留並に發着日割等は最寄に就て御問合せを乞ふ

女子青年界第八卷第拾貳號（毎月一回一日發行）
大正十年十一月廿六日印刷納本　大正十年十二月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可



一部定價二十錢

復刻版 女子青年界 第12巻

1992年10月9日発行
本体価格 22､000円

発行者 船橋 治
発行所 不二出版
東京都文京区向丘1-2-12
〒113 ☎03(3812)4433
印刷所 三進社
製本所 青木製本所

中性紙使用